豊中市（仮称）中央図書館整備計画
（素案）

令和 7 年(2025 年)●月

豊中市教育委員会

目次

はじめに.....1

I 計画の目的と位置づけ.....2
1 経過・目的.....2
2 計画期間.....2
3 位置づけ.....3

II 市民・団体等のニーズ.....4
1 検討の経緯.....4
2 市民・団体等の意見内容.....5
（1） 基本構想の策定過程の意見.....5
① 豊中市立図書館における中央図書館機能について意見書.....5
② アンケート調査.....6
③ 図書館関係団体ヒアリング.....6
④ オンラインミーティング.....7
⑤ 基本構想のパブリックコメント.....8
（2） 民間事業者等との情報交換.....9
（3） みらいプランの策定過程の意見.....10
① 市民ワークショップ.....10
② みらいプランのパブリックコメント.....11
（4） 整備計画の策定に向けて.....12
① 市民ワークショップ.....12
② 図書館関係団体アンケート.....16
③ 中高生アンケート.....17
④ 子育て世帯アンケート.....20
⑤ 障害者アンケート.....24
⑥ 豊中市 LINE アカウント登録者アンケート.....29
⑦ 図書館利用者アンケート（来館者）.....33
⑧ 市民ワークショップ 2.....37

III サービス計画.....45
1 豊中市立図書館のめざす姿.....45
（1） 豊中市立図書館の基本コンセプト及び基本方針（基本構想）.....45
（2） まちづくりの図書館像とビジョン（みらいプラン）.....46
2 （仮称）中央図書館のサービス方針・サービス計画.....47
（1） サービス方針.....47
（2） サービス計画.....47

IV 整備計画.....51
1 整備計画.....51

（１） サービス計画と諸室・設備等の整備方針 51
（２） 諸室の分類及び規模 53
（３） 諸室・設備等の仕様 54
2 機能配置 67
（１） 機能配置方針 67
（２） 機能配置 67
V 管理運営計画 68
1 蔵書マネジメント 68
（１） 蔵書構築の方針（基本構想） 68
（２） 蔵書の構築 69
（３） 中央館の蔵書計画 69
2 施設の管理運営 70
（１） 管理運営方式 70
（２） 開館時間・休館日 70
VI （参考）第一優先候補地の選定 71
1 選定手順の概要 71
2 評価項目の概要 72

はじめに

昭和 20 年（1945 年）3 月に、豊中市役所内に豊中市立図書館を開館して以降、図書館法がめざす国民の教育と文化の発展に寄与するため、市内各地に図書館を設置し、資料・情報の収集及び提供、こども読書活動、障害者サービス、多文化共生など様々な図書館サービスを市民とともに展開してきました。

この間、大きく社会状況は変化してきており、国の人口は平成 20 年（2008 年）の 1 億 2,808 万人をピークに減少傾向であり、また、子どもの出生数も昭和 24 年（1949 年）の約 270 万人から、令和 4 年（2022 年）には初めて 80 万人を下回るなど減少が進んでいます。

本市は、大阪市に隣接し公共交通網に恵まれた住宅都市であることから、人口は約 40 万人と横ばいの状況ですが、令和 32 年（2050 年）には国立社会保障・人口問題研究所の推計によると約 37 万人に減少する見込みとなっています。また、社会保障関係経費の増大やインフラ・公共施設の老朽化対策など、生産年齢世代が減少する中でも、まちづくりに必要な財源は増えていくものと考えられます。

岡町図書館は昭和 44 年（1969 年）の建設から約 60 年が経過し、現在更新が必要な時期となっています。将来に向けた持続可能な図書館サービス網を構築するためには、（仮称）中央図書館を整備し、将来世代に負担をかけない新たな施設の配置が必要となります。そのため、令和 3 年（2021 年）2 月に豊中市（仮称）中央図書館基本構想を策定し、今後の図書館の方向性を示すとともに、令和 5 年（2023 年）3 月には基本構想を具現化する豊中市立図書館みらいプランを策定し、具体的な取組みを進めています。

この度、（仮称）中央図書館の開館に向けて、整備と運営に係る計画をまとめました。策定にあたり、多くの市民の皆さまから、様々なご意見をいただき感謝申しあげます。この計画に沿って、（仮称）中央図書館の整備を進めていきますが、（仮称）中央図書館が豊中市の魅力の一つとなり、誰もが行きたくなる図書館となるよう市民や事業者の皆さまと一緒に創りあげていきたいと考えていますので、今後も変わらぬご支援・ご協力を賜りますことを、よろしくお願い申しあげます。

令和 7 年（2025 年）●月
豊中市教育長　岩元 義継

Ⅰ　計画の目的と位置づけ

1　経過・目的

豊中市は、令和３年（2021 年）２月に、将来ニーズを見据えた新たな図書館サービスの提供と、（仮称）中央図書館を核とした新たな図書館ネットワークの構築について、今後の方向性を定めた「豊中市（仮称）中央図書館基本構想（以下、「基本構想」とする）」を策定しました。

基本構想に基づき、令和３年度（2021 年度）は、民間事業者にサウンディング型市場調査※1を実施し、（仮称）中央図書館の候補地となる想定エリアの状況や事業手法に加え、機能の複合化の可能性や魅力ある空間づくりについて意見交換しました。また、図書館関係団体との勉強会を開催し、公民学連携の取組みや（仮称）中央図書館の整備に向けた検討状況、電子書籍の導入などについて情報共有、意見交換を行いました。

令和４年度（2022 年度）は、市有地に対し（仮称）中央図書館の候補地としての適性について検討するとともに、民有地から候補地を募る「（仮称）中央図書館候補地における民間用地活用の可能性調査」を実施し、基本構想に基づく必要条件を満たしていた３か所を候補地として選定しました。また、（仮称）中央図書館の立地環境や図書館の位置づけにおける役割等について意見交換を行う市民ワークショップや、未来の図書館像について市民と考えるシンポジウム、パブリックコメント（意見公募手続）※2などを経て、令和５年（2023 年）３月に、基本構想の豊中市立図書館の基本方針等の関連内容を具現化し、新たな図書館サービス網を示す「豊中市立図書館みらいプラン（以下、「みらいプラン」とする）」を策定しました。

令和５年度（2023 年度）は、みらいプランで公表した（仮称）中央図書館の候補地３か所について、豊中市（仮称）中央図書館第一優先候補地選定委員会において評価を行い、阪急電鉄宝塚線曽根駅前の民有地を第一優先候補地に選定しました。また、（仮称）中央図書館の使い方や諸室・空間の配置等について意見交換を行う市民ワークショップや、図書館関係団体、中高校生などへのアンケート調査を実施し、（仮称）中央図書館へのニーズを把握する取組みを進めました。

基本構想やみらいプラン、これまでの市民の皆さまの様々なご意見を参考に、令和７年（2025 年）●月に（仮称）中央図書館の整備・運営に係る内容を示した「（仮称）中央図書館整備計画（以下、「整備計画」とする）」を策定しました。今後は、整備計画に基づき、（仮称）中央図書館の整備・運営体制の構築を進めます。

2　計画期間

令和７年（2025 年）●月から（仮称）中央図書館整備までとします。

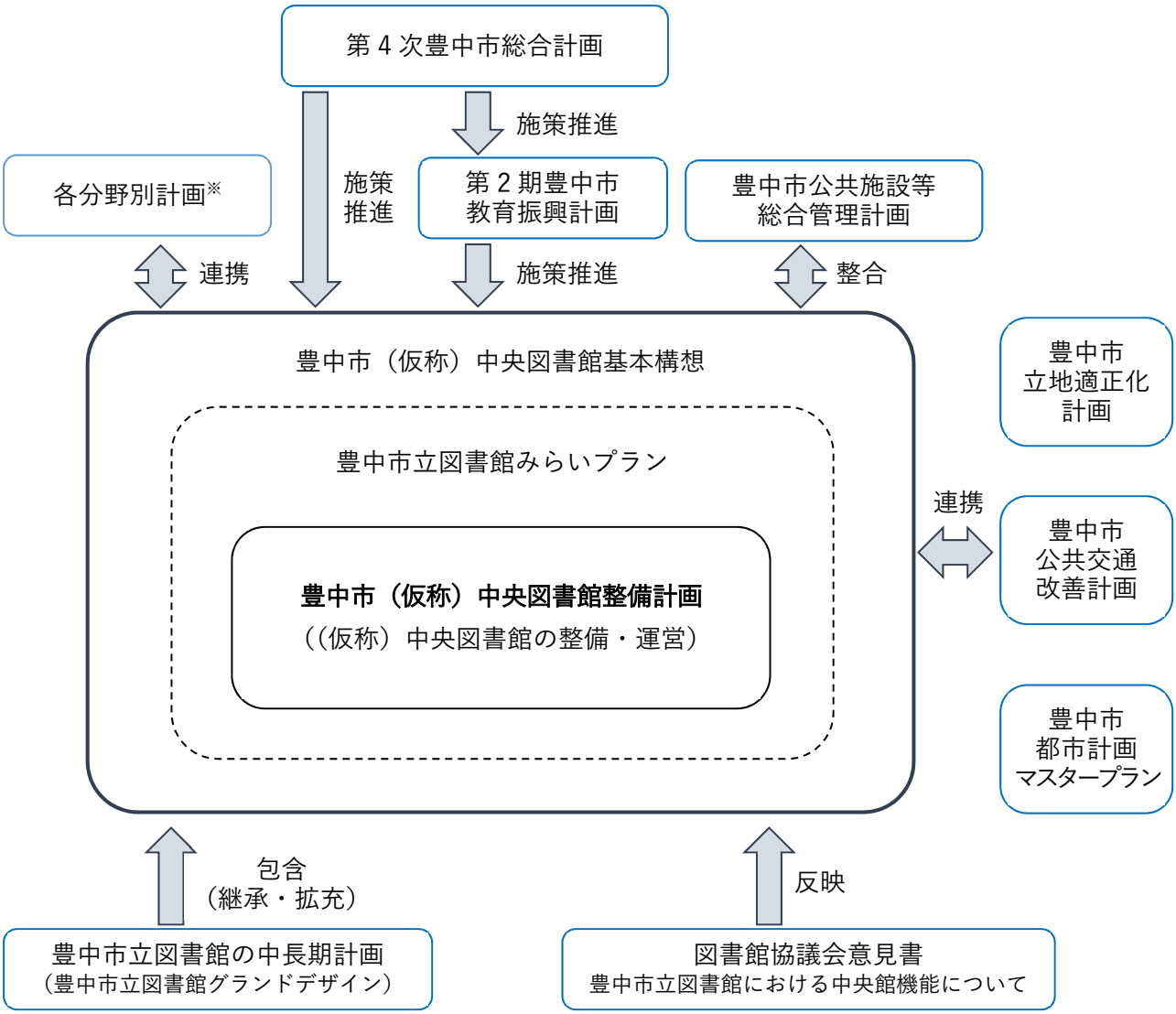
※１：サウンディング型市場調査・・・自治体等が取り組む事業について、民間事業者等との対話や情報交換を通じ、新たなアイデアの創出や、事業者の参入意欲の向上を図るもので、全国的に行われている対話手法の一つ。令和 3 年度の取組みでは設計や建設、維持管理などの分野から参加がありました。

※２：パブリックコメント（意見公募手続）・・・「豊中市意見公募手続に関する条例」に基づき、市が計画等を定めるにあたり、事前にその案を公表し、市民の意見を求める制度。令和４年度の取組みでは 203 人 681 件のご意見をいただきました。

3　位置づけ

整備計画は、基本構想及びみらいプランと同様、図書館行政として「第４次豊中市総合計画」「第２期豊中市教育振興計画」といった上位計画を踏まえ、「豊中市立図書館の中長期計画」を包含するもので、基本構想の「Ⅳ．豊中市立図書館の基本方針」、「Ⅴ．（仮称）中央図書館の構想」と、みらいプランの「Ⅲ．まちづくりの図書館像」、「Ⅳ．豊中市立図書館サービス網の構築」に沿って、（仮称）中央図書館の施設整備・運営を示す計画です。

また、公共施設マネジメントを推進する「豊中市公共施設等総合管理計画」、施設立地に関連した「豊中市立地適正化計画」、公共交通によるアクセスに関連した「豊中市公共交通改善計画」、都市計画、まちづくりに関連した「豊中市都市計画マスタープラン」と連携した内容とします。



※各分野別計画には、「第２期豊中市子育ち・子育て支援行動計画　こどもすこやか育みプラン・とよなか」を含みます。なお、「豊中市子ども読書活動推進計画」の理念は、同計画に包含しています。

Ⅱ　市民・団体等のニーズ

1　検討の経緯

（仮称）中央図書館については、これまで図書館協議会から「豊中市立図書館における中央図書館機能について意見書」が提出されるとともに、基本構想、みらいプランの策定過程におけるアンケートやワークショップ、パブリックコメントなどにおいて、多くの市民意見をいただいてきました。さらに整備計画の策定にあたっては、ワークショップや様々な方へのアンケートを実施して意見を聴取し、その意見をもとに市民の皆さまとワークショップで整備計画の検討を進めました。

表　検討の経緯

年度	実施状況	策定された計画
平成 30 年度 （2018 年度）	・豊中市立図書館における中央図書館機能について意見書（図書館協議会）	基本構想
令和元年度 （2019 年度）	・市民及び来館者アンケート調査	
令和 2 年度 （2020 年度）	・図書館関係団体ヒアリング ・オンラインミーティング ・基本構想のパブリックコメント	
令和 3 年度 （2021 年度）	・サウンディング型市場調査（事業者）	―
令和 4 年度 （2022 年度）	・市民ワークショップ ・みらいプランのパブリックコメント	みらいプラン
令和 5 年度 （2023 年度）	・市民ワークショップ ・図書館関係団体アンケート ・中高生アンケート ・子育て世帯アンケート ・障害者アンケート	整備計画
令和 6 年度 （2024 年度）	・豊中市 LINE アカウント登録者アンケート ・図書館利用者アンケート（来館者） ・市民ワークショップ ・整備計画のパブリックコメント	

2　市民・団体等の意見内容

意見書やアンケート、ワークショップ、パブリックコメントなど（仮称）中央図書館に係る主な意見をまとめています。

（1）基本構想の策定過程の意見

① 豊中市立図書館における中央図書館機能について意見書

実施状況	審議会：豊中市立図書館協議会 提出月：平成 31 年（2019 年）3 月
全般	・各地域館・分館からの利用状況、地域情報、潜在的ニーズ、事例（サービス、レファレンス、相談、行事等図書館活動全般）を集約・整理する ・集約した情報をもとに豊中全体として図書館活動の現状分析や、先進事例の調査・研究を行う ・図書館全体の基本方針・サービス計画を立案し、豊中全体としての事業展開を推進する ・地域館・分館の事業をバックアップする ・人員体制・応援体制を整備し、地域館・分館のバックアップや行事等の応援に対応する ・災害や事故等のリスク発生時には司令塔的な役割を担う（関係部局・機関との連携窓口、長期化する場合の対応等） ・プレスリリース等を一括で管理し、効果的な PR・情報発信を行う
資料収集・保存	・選書から除籍までの流れを中央図書館で集中して行う（選書機能、保存機能の強化） ・レファレンス資料を中央図書館に集約し、充実したレファレンスコレクションを構築する ・入門書から専門的レベルの資料情報を揃え、比較閲覧ができるようにする ・児童書、季節や行事の本等、団体貸出用の複本資料を所蔵する ・地域館・分館から集まる地域資料・情報を整理して保存・提供する（地域情報のアーカイブ機能、人材バンク機能等）
レファレンスサービス※1	・レファレンス（資料・人材）を集約し、高度なレファレンスに対応する ・地域館・分館からのレファレンス依頼をバックアップする ・対外的な連携窓口として、関係部局・機関との連携や調整を行う ・レファレンス事例を集約・整理し、レファレンス協同データベースへの登録や市民への公開等、知の蓄積が広く利用できるよう整備する
多様な学習機会の提供	・多様な学習ニーズに応える事業計画を立案する ・図書館の使い方を発信するような図書館活用講座、情報検索や情報リテラシー※2講座の企画を行う ・市内で開催される講座や学習機会の情報を集約し、整理して提供する
利用者に応じた図書館サービス	・すべての市民への図書館サービスをめざし、全体のサービスの統括・調整を行う ・ICT 等の活用により、利便性の高い図書館システムを構築する ・団体貸出や動く図書館の拠点として、アウトリーチサービスを整備する ・学校図書館支援の統括窓口として、豊中市全体としての小中学校との調整を行う
市民協働事業等の推進	・地域館・分館での協働の取組みをバックアップし、市民活動を支える全体的な調整を行う ・地域館・分館での協働の取組み状況を把握し、個人・グループの活動をつなぐ拠点となる ・関係部局・機関、市民の対外的な窓口を担う

職員（研修、人材育成）	・職歴に応じた職員配置により、長期研修等に計画的に参加できる体制を整備する ・中長期のサービス計画を視野に入れた将来的な課題に対する研修の計画を行う ・情報リテラシー、ICT 教育等、情報全体に関わる人材を育成する ・経験の異なる職員が集まることで、図書館サービスに関わる専門的な知識やスキルを継承する体制を作る

※１：レファレンスサービス・・・調べ物や研究の役に立つ事典類や専門書、過去の新聞などの資料や情報を揃え、日常生活での疑問・質問に答えを探すお手伝いをしています。また、本や読書に関する相談をお受けしています。なお、図書館ホームページからｅメールでレファレンス申込ができます。（ｅ-レファレンス）

※２：情報リテラシー・・・様々な種類の情報源の中から必要な情報にアクセスし、獲得した情報を正しく評価し活用する能力。

② アンケート調査

実施状況	＜市民アンケート＞ 実施期間：令和元年（2019 年）9 月 13 日（金曜）～10 月 8 日（火曜） 配布数：2,986 票、回答数：829 票（回収率：27.8%） ＜来館者アンケート＞ 実施期間：令和元年（2019 年）10 月 26 日（土曜）～10 月 30 日（水曜） 配布数：1,995 票、回答数：1,681 票（回収率：84.3%）
実施概要	□中央図書館のあり方 ・利用してみたい中央図書館 座席・蔵書が充実した中央図書館への利用意向が多く見られ、特に来館者アンケートで蔵書に対するニーズが高い ・あるとよいスペース 静かな読書空間が約半数の回答者に選択されているほか、子ども連れでの利用や飲食、自習のためのスペースなども必要と考えられている ・その他 開館時間帯は既存館と同様でよいとの回答が 67%を占め、飲食・文化・商業・子育て世代向け施設などとの併設が望まれている

③ 図書館関係団体ヒアリング

実施状況	実施期間：令和 2 年（2020 年）7 月 1 日（水曜）～8 月 31 日（月曜） 回答数：14 団体
実施概要	□中央図書館に期待すること ＜地域資料＞ ・地域の歴史資料を残す取組みは、豊中の場合は図書館の役割だと思う ・歴史ある摂津の国、豊中市（大昔ゾウやワニがいた、古墳の残る町）の歴史を知る手立ての一つに、現在あちこちに小規模に展示、収納されている文化財を総合的に整理し、（仮称）郷土資料館、（仮称）古文書館、（仮称）博物館などの構想につなげ、中央図書館と同エリアにあることを希望 ＜交流＞ ・知的な文化的な空間で、市民全体の多様な交流や発信

	・暖かく血の通った人間どうしの交流の場 ＜子どもへの支援＞ ・子どもがわくわくするような読書スペースであること ・充実した閲覧スペースや自習スペース、子どもスペースの拡充 ＜その他＞ ・中央図書館に行けば「サポートがある」という体制、それを支える（職員に限らない）人材の長期的育成 ・まとまった蔵書、資料の閲覧（開架式書庫なども含む） ・展覧会や催し、市民による講座など ・図書館も含め市民が憩えるスペース（例えば喫茶ルーム、多目的スペース、ホールなど）と、一体となった建物を期待 ・利便性 ・外観より内容の充実したもの ・学校図書館との連携 ・点訳図書の周知

④ オンラインミーティング

実施状況	実施期間：令和 2 年（2020 年）9 月 4 日、9 月 25 日、10 月 23 日、11 月 20 日・いずれも金曜 19 時～20 時 30 分 参加者数：各回約 10 人
実施概要	□中央図書館を中心としたネットワークでの地域の関わり方は？（第 3 回） ＜地域への働きかけ＞ ・市民の知的好奇心を満たすための施設として、中央図書館から市民・地域に向けて様々なイベントを仕掛ける ・中央図書館職員は各館を巡回して積極的に情報を発信 ・中央図書館ではすべての市民を対象として、ビブリオバトルや姉妹都市・市外団体と連携したイベントの開催 ・中央図書館では、地域館における地域との関わりの取組み内容や結果を整理・分析・バックアップするとよい ・中央図書館は他館の規範となるとともに、地域間でサービスに偏りが生じた場合にはそれを担う役割を担うべき ・中央図書館では、現在及びこれからの市民の暮らしや思想、人生、市民活動などに関する資料・情報をさまざまな形式でアーカイブ化していく役割を担うべき ・各地域の状況を踏まえつつ小中学校や幼稚園を支援することは、中央図書館にとつても重要な機能になるだろう ・中央図書館は市内の学校などに対して図書館だよりを作成・配布したり、購入の参考となる図書リストを配布したりすることで、地域とのネットワークを拡大していってはどうか

⑤ 基本構想のパブリックコメント

実施状況	意見募集期間：令和 3 年（2021 年）1 月 15 日（金曜）～2 月 5 日（金曜） 意見件数：79 件
実施概要	＜豊中市立図書館協議会からの意見書＞ ・「中央図書館には豊中市の図書館としての中心的存在としての役割や地域館や分館のバックアップ機能を果たすことが期待されている」ことの尊重 ＜電子書籍の導入＞ ・自然系の資料や自然情報などのデータの収集・集約 ＜学校図書館の支援＞ ・母語・母文化の学びについて各館や学校図書館での配置が難しい場合、中央図書館などにリソースセンターを設置 ＜人材育成＞ ・中央図書館ではデジタル技術を活用し、人と人、人と知や情報をつなげていく必要がある ＜施設配置の考え方について＞ ・厳しい財政状況の下、中央図書館は、デジタル化を見据えた新しい図書館サービスの中心となることをめざす ＜施設配置方針に基づく各館の役割＞ ・中央図書館を市役所本庁・議会棟と連携して整備し議会図書館としての位置付けも与える ＜中央館の機能複合＞ ・（仮称）中央図書館の建設に際しては複合施設として博物館機能を併設 ・平和資料館の併設による中央図書館機能への付加価値 ＜候補地＞ ・市の中心である豊中駅近辺での配置 ・既存の文化施設が集積する曽根エリアに包含される豊島公園での配置 ＜中央図書館利用のきっかけ＞ ・開放的な閲覧スペースの確保 ・音のゾーニングからキャビネット型の座席数の配置 ・公のサービスが集合する複合施設としての中央図書館 ・ギャラリーやオープンスペースなど、公開講座や市民活動ができるスペース ・中央図書館に立ち寄りが増える工夫、立ち寄りによる図書の利用につながる仕掛け ・市民が活動するための会議室・ホール ・オープンスペースではイベント実施だけでなく市民活動が目に入る場所とする ＜すべての人が利用しやすい図書館について＞ ・（仮称）中央図書館のハード面について（最寄り駅からの点字ブロック、入り口での音声案内、対面朗読室の設置、対面朗読の空調等） ＜中央図書館の整備・運営手法について＞ ・整備手法についてメリット・デメリットを検討し、市民への開示が必要 ・運営手法について、経営と管理は民間企業に渡さない方がよい

（2）民間事業者等との情報交換

サウンディング型市場調査

実施状況	実施要領公表：令和 3 年（2021 年）6 月 11 日（金曜）、対話の実施：8 月 対話の参加者：18 団体
実施概要	＜整備に係る事業手法＞ ・定期借地・賃貸借方式、民間施設との一体整備、リース方式、移転更新を前提とした市有地活用の提案があった <PPP/PFI 手法のメリットと課題や留意点＞ ・PPP/PFI 手法では、一般的に費用負担の低減や平準化が期待できるほか、設計段階から維持管理や運営を見据えた検討が可能であるといった効果が期待できる反面、設計と施工を一体で発注することから、途中での仕様変更が難しく、発注時の要求水準書の作り込みがポイントになる <運営段階における公民連携＞ ・運営段階における公民連携については、開館時間を柔軟に設定できることや、複合施設の場合、施設全体の一体的な管理運営による連携等について効果が期待される一方、運営段階を担うことができる事業者が市場で限られているため、運営段階も含めた公民連携手法では、競争原理が働きづらくなるおそれがあるとの意見が寄せられた。また、（仮称）中央図書館は、豊中市立図書館全体のマネジメントという役割もある中で、これについては豊中市自らが実施すべきである <施設の維持管理や事業期間について＞ ・事業期間については、設計施工期間プラス維持管理期間 15 年程度が一般的との意見が多数。これは、施設の大規模改修（設備の更新等）時期が施設竣工後約 15 年のタイミングであり、大規模改修への対応については、不確定要素が多いことから、当初事業からは切り離すべきとの考えに基づくものであった <候補地について＞ ・基本構想に掲げる想定エリアであれば、どの場所でも一定の事業性が期待できるとの意見があった。また、具体的な候補地についてのメリット・デメリットについて対話を行ったほか、既存建物の転用（リノベーション）については課題が多いとの指摘があった ＜中央図書館の魅力向上＞ ・入りやすい施設であることが重要 ・開放的なエントランスは魅力的だが、施設全体の天井が高くなると建物自体も高くなり、空調効率が悪いなどの弊害がある。 ・多世代が楽しめる空間づくりが必要 ・半屋外スペースの活用も期待される ・将来を見据え、可変性を持った構造とすることが必要 ・立地にもよるが駐車場は必要 ・耐荷重等の観点から、書庫を地下等に設ける例も多いが、水害による浸水リスクも警戒する必要がある。書庫を高層階に設置する、施設内において分散して所蔵するといった工夫が必要 ・内装デザインは極めて重要でありデザインの統一性や定期的な内装リニューアルも重要

（3）みらいプランの策定過程の意見

① 市民ワークショップ

実施状況	実施期間：令和 4 年（2022 年）10 月 13 日、10 月 27 日、11 月 10 日、11 月 24 日・いずれも岡町図書館、木曜 18 時 30 分～20 時 30 分 実施回数：連続実施・全 4 回、参加人数：約 25 人
実施概要	＜図書館ネットワークにおける中央館の役割＞ ・サービス網の中心/専門的な司書の配置/蔵書数 100 万冊によるアーカイブ/専門性の高い本 ・レファレンスの要/課題解決のための資料収集・システムが必要/地域の課題への対応/本の相談受付 ・幅広い年代層の方が使える時間帯や講座・イベント内容/子どものための図書館/誰もが安らげる場所 ・中央公民館とのコラボレーション/阪大や音大のある街としての機能拡充と連携/学校との連携 ・市のシンボルとなる建物/岡町図書館が古くなってきているので建替必要 ・グローバル化（洋書）対応/郷土の図書等の集大成となるスペース ・開放的な部屋/個室的なスペース/ディスカッションできる部屋/親子で本と交われる広く自由なスペース ・大きい空間でゆったり過ごせる/広い場所と多くの席数（2～300 席）/机のある席・ソファー・長椅子をとりまぜる ・交通の便のよい場所に/市内どこからでも行きやすい/駐車場・駐輪場スペースが豊富にある ・カフェスペース/持込飲食が可能なスペース/保育サービスなど子育て支援 ・民間企業とのコラボ（複合施設） ＜中央館の適地において重視すべき要素＞ ・交通利便性 鉄道・バスといった公共交通でのアクセス、徒歩・車・自転車でのアクセス、中央館から他館へのアクセス 通勤や通学、習い事などの帰りに立ち寄れる ・敷地の広さ 蔵書・講座やイベント等の活動スペース、駐車場、駐輪場といった必要な機能が確保できる敷地の広さ バリアフリー化され、ゆとりを持って閲覧できる広さ/採光の良い余裕のある広さ ・安心・安全 子どもやお年寄り、外国人、障害者が行きやすい/誰が見ても分かりやすい場所/夜も帰りやすい 身近に感じる場所（図書館に行ったことがない人が入りやすい、親子で入りやすい） ・他館との関係、施設のあり方 中央館・地域館・分館の考え方に基づく配置のバランス/独立した図書館が良い/リノベーションでもよい ・公共施設との連携・近接・シナジー効果 中央公民館、文化芸術センター、市役所、体育館、公園（豊島公園）、児童館・公民館、小学校

	・商業施設との近接性 人の集まる商業施設の近くや商業施設の中/カフェとの併設/商業施設との複合（新たな利用者が入る） ・豊中らしさ 文教のまち/まちの風景との調和/豊中らしい場所/電車の音が聞こえる ・環境、みどり 公園への隣接/緑の中/屋上庭園/芝生で本が読める

② みらいプランのパブリックコメント

実施状況	意見募集期間：令和 5 年（2023 年）1 月 17 日（火曜）～2 月 6 日（月曜） 意見件数：681 件
実施概要	＜中央図書館＞ ・中央図書館がデジタル化の機能を担う中心となるための議論ができていない印象がある ・中央館の役割について、「市民交流や情報発信の中心」「多目的なオープンスペース」などとあるが、中央館を豊島公園に設置するとしたら、公園内にあるという立地条件を考慮し、豊中市内の自然がわかるような図書コーナーの設置や、展示・発信などをして欲しい ・中央館の役割では、デジタルやネットワーク機能についても入れておくべき ・中央館は面積を広くとり、近代的なしゃれた大階段のある図書館をイメージしますが、階段付本棚なら高齢者、肢体不自由の人、妊婦には負担で安心して本を探せないのではないか心配 ・中央館は年中無休、24 時間開館とすればどうか（年末年始等の休館は否定しない） ・岡町図書館は豊中の代表的な文化拠点であったことに留意し、岡町駅周辺での存続を前提としてほしい ・中央館はモノレール大阪空港駅の駅ビル化構想を考案し、その中にスペースを確保することで設置費用の軽減化を図ることのできる計画にする。空港に図書館を設置し、豊中のシンボル・観光資源と位置付け、地元小学校からの見学も多数受け入れ、コラボレーションの意味合いは一層増幅する ＜中央館の候補地＞ ・岡町駅周辺で図書館があるまちとして地域を選んで住んでいる人がいる ・現岡町図書館は克明小学校の隣にあり子どもや交通弱者にとって安全で利用しやすい ・面積が狭くても岡町図書館がよい ・豊島公園での市民の公園利用の圧迫につながる

	・豊島公園内に整備する場合、公園の樹木は伐採しないでほしい。環境配慮の建物になるよう工夫がいる ・曽根駅から豊島公園まで途中に急な坂があるため、車いすや身体の不自由な人、子どもや高齢者には不便 ・立地選定では災害ハザードの低減が必要 ・中央図書館が曽根駅周辺になれば、曽根駅から豊島公園にかけて大型公共施設が集中することになるが、アクセスしやすい場所とは言い難いのではないか ・岡町図書館を修繕して継続利用できるように工夫してほしい ・曽根駅周辺であれば、豊中市文化芸術センターやアクアホール、中央公民館もあり、文化・学術の中心地として施設を集積することで、地域的な活性化を図ることが出来る ・岡町駅周辺だと電車以外で行くのは難しいが、曽根駅周辺であれば電車の他にバス、駐車場ができれば車で行くことも可能となる ・豊島公園は緑地と図書館の設置の両立ができるか疑問 ・東西と南北の公共交通の結節点である蛍池が最適 ・曽根の駅前は渋滞が起こりやすく時間を要する ・滞在型の図書館とするならば、100 台程度の無料駐車場の整備が必要

（4）整備計画の策定に向けて

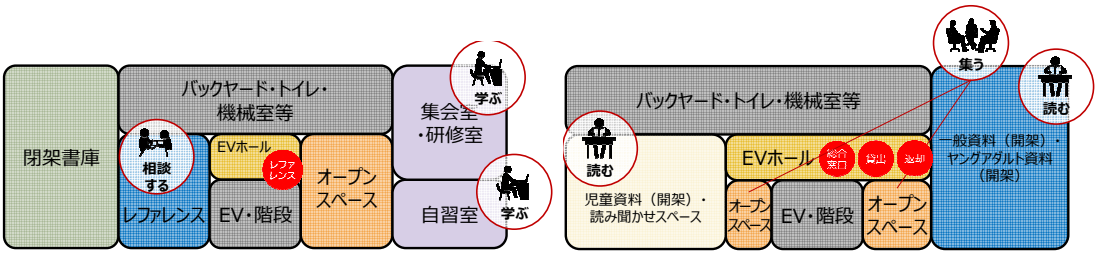
① 市民ワークショップ

実施状況	実施期間・場所： 令和 6 年（2024 年）1 月 20 日（土曜）　千里文化センター「コラボ」 1 月 21 日（日曜）　庄内コラボセンター「ショコラ」 1 月 27 日（土曜）　岡町図書館 いずれも 10 時 30 分～12 時 30 分 実施回数：3 回、参加人数：46 人
実施概要	□（仮称）中央図書館でのすごし方、（仮称）中央図書館に必要なこと・もの等 ＜千里文化センター「コラボ」会場でのアイデア＞ ・読む：選んだ書籍をゆっくり読む/一人で読んで楽しむ/専門書を読みたい/デジタルコンテンツの充実 ・調べる：市の全図書館の情報を教えてもらう/近隣の社会資源とのつながり（阪大や民博等） ・学ぶ：駅近での自習スペース/専門的な勉強スペース/市の文化・歴史・産業を学ぶ/知的好奇心の刺激 ・多文化・多言語：多文化共生の拠点/多言語の本/外国人の日本語学習/外国の絵本の読み聞かせ ・子育て：子どもも親もすごしやすい/おむつ替えスペース・授乳室/飲み物を飲みながら読む/一時預かり ・聞く・見る・支える：視覚障害者用福祉機能/高齢者にわかりやすい案内/音楽を楽しむ/感性を育める工夫 ・発信・きっかけづくり・出会い：知らない本を発見する/テーマ展示/文化芸術センター・豊島公園とのコラボ

	・くつろぎ：外の景色が見える/花や緑がある/ゆるやかに「静」と「にぎやかさ」がつながる/大人の本選び ・集いの場：話し合いの場/オープンスペースでのコンサートや討論会/絵本の原画展できる設備 ・専門性・地域を支える：図書館を運営する人を支える/協働できるスタッフ/市民とのつながり等 ＜庄内コラボセンター「ショコラ」会場でのアイデア＞ ・借りる、読む：静かに読む/図書館員のおすすめ本やレビュー/個室/読み聞かせスペースに本が多い ・相談する、調べる：郷土資料/お困りごと相談窓口/行政手続きをつなぐ/図書館・美術館・博物館とコラボ ・はたらく、学ぶ：仕事に関連する資料やデータベース/ICT 設備・ワークスペース/夜まで使える自習スペース ・バリアフリー、支える：情報保障/大人への音読/来館できない人への対応/トイレ・エレベータ・階段の配慮 ・発表・発信：講演会/絵本などのプレゼン/本のレビューの共有/壁に絵を描くスペース ・きっかけ・出会い・つながる：本との出会い/カフェの充実やリサイクル市/話をするスペース ・くつろぎ：休日にリラックスする場所/親子で本に親しめる空間/畳でくつろぐ/寝転がれる/足湯 ・交流・イベント・集まる：本からのネットワーク/海外、趣味、長寿の交流/イベント/読書会/子どもエリア ・中心的機能：他館と連携したレファレンス/蔵書の質・量/豊中らしい蔵書/使いやすさ　　等 ＜岡町図書館会場でのアイデア＞ ・読む・本を選ぶ・蔵書：ゆっくり閲覧/おすすめの共有/分野検索しやすい/豊富な蔵書/選書・除籍 ・相談・情報収集・発信：最新情報の入手（紙・PC）/市制のポータル/ソーシャルワークとの連携/作家等との交流/市内図書館の情報掲示 ・レファレンス：司書の充実/座って相談できる/司書との会話/知的情報の収集/行政資料 ・学ぶ、自習室：古文書の保存・管理/自習室の充実/蔵書のテーマ展示・講演会/調べもの ・歴史・地域、多文化：豊中の歴史がわかるギャラリー/外国籍の方が利用しやすい/多世代・多文化共生 ・保育機能（子育て）：本を選ぶ間の託児/子どもを見守りやすい環境/テレワークできる空間（保育付き） ・誰もが使いやすい：赤ちゃんから高齢者障害者まで利用できる/忙しい人が来れる/若い人/多世代との出会い ・集う・イベント・交流：団体だけでなく市民が利用できる/ボランティアとの交流/対面朗読室/談話スペース ・地域を支える機能・仕組み・専門性：学校図書館連携/分館サポート/人員体制充実/タブレット・DVD 貸出/生涯学習センターとしての情報発信/家族で来れる/ビブリオバトル会場/豊中市にゆかり ・話せる/静かにすごす：子どもがさわいでも気にしなくてよい、本を探せる/集中して作業/ゆっくり本をみる

	・くつろぐ：大人が楽しめる/雑誌、新聞を読める/飲食でリラックスできる/座れるスペース ・飲食：子どもと食事ができる/飲み物 OK/カフェ併設　等 □機能配置 ・閲覧室 開架の周りの窓側に椅子を配置/資料を複数広げて調べものができるスペース/畳でリラックスできるスペース/くつろげるテラス席/PC 学習室/一般と児童の書架はまとめて配置/書架を一カ所にまとめない/専門性があることを自由に学べる/閲覧スペースでもオープンな取組みができる　等 ・閉架書庫 閉架書庫を設けず、別倉庫や地域館の図書館ネットワークで対応し中央図書館のスペースを有効利用/減らして開架の面積を増やす/司書以外も自由に出入りできる/外から目立つ場所には配置しない　等 ・地域資料 歴史・地域情報は目立つ場所に/北摂地域の各地域の資料を共有できる資料室 ・オープンスペース イベント実施/多文化・多言語との出会い/相談・会議ができる/書籍持ち込み/スポーツ観戦できるスクリーン/本を通じ人と話し共有する/子どもエリアに囲まれて配置/発表は研修室とオープンスペースを選択できる/立ち寄りでもイベントに参加できる/カフェがある/大人と子どもを分ける/フレキシブルな空間で分けられる/目的に応じて分ける（飲食可能やイベント利用）/自動販売機設置/集会室・研修室と連携した配置/YA コーナー（10 代向け資料コーナー）をオープンスペースに内包しそれを中心に大人と子どものスペースを緩やかにつなげる/窓側に自習コーナー/自習室横に高校生が話ながら勉強できるオープンスペース/一カ所に集約　等 ・児童資料 子どもが騒いでも気にならない話せるスペース/一時保育機能/子どもとすごしやすい（絵本を選ぶ、おむつ替え・授乳室）/子どもの声をききながら調べものをする/動物と触れ合えるベランダ/出入口付近で子どもが絵を描ける壁を設置/自由に本と接する書架/子ども向けイベントの実施/日だまりのような本が読めるスペース/階段や入口から離れている/総合案内は子どもを見守れる場所に　等 ・レファレンス レファレンスを分散配置（クイックレファレンスを 2 階総合窓口横・レベルの高い相談は３階）/職員が各所にいる（カウンター常駐でなくてよい）/開架書架の近くに配置/司書が話しかけやすい（庄内はガラス張り）/インターネットが使える空間　等 ・集会室・研修室 集会室・自習室は機能を固定化しない・多機能化/集会室・自習室は一体的な空間/仲間と学習できる場/部屋数を多く配置/自由に使える/目的を持ったイベント実施/飲食自由等 ・自習室 学生と一般で分ける/書架の間に配置/窓に面した自習スペース/間仕切りで集中スペース/中高生の利用/図書館になくてもよい等

	・飲食 飲食可能なスペース/図書スペースと飲食は分ける/１階民間施設に飲食店があれば図書館になくてよい/自動販売機の設置/複合機能のひとつ　等 ・情報発信 目に付く所への配置/エントランス近くのオープンスペースで情報発信/充実したインターネット環境/　目につきやすい入口で情報提供（貸出ランキング、司書やボランティアおすすめ本、自分が借りた本のおすすめ情報、イベント案内）/司書が各専門を話してくれる場　等 ・バリアフリー 障害者が一日滞在できる/点字図書館/対面朗読室・デイジーテキスト作成室は休憩室・トイレと合わせて入口に配置/点字ブロック誘導/対面朗読室を複数配置/対面朗読室を皆わかる場所に配置/誰もが使いやすい（多世代・子育て世代・障害のある方）　等 ・外部との連携 駅から文化芸術センターまでつなぐ「豊中文化の道」にある図書館/中央公民館や文化芸術センターとつながる/外から見てもわかる/電車から見える/きっかけ・出会い・いこいの場/駅からのアクセスを便利に/１階は図書館らしく/１階での案内（図書館の取組み・イベント）/駐輪場近くでの返却　等 ・建物構造 見える聞こえる吹き抜け空間/EV・階段移動での一体的な図書館/図書館以外との一体性/活動が見える空間/話せる空間も静かな空間もどちらも必要　等
意見の整理	・蔵書構成については、専門書の充実に加え、歴史や文化、行政など地域資料と出会える場所としてや、多言語・多文化資料のある多文化共生の拠点としてなど、様々なニーズを満たすよう提案があった ・市民や地域とのつながりを持ち、市民協働による取組みを行なう図書館であることを求める意見があった ・個人で集中できる学習環境や仲間と学習できる場など、中高生から一般までの利用を想定したフレキシブルな自習室・学習スペースの設置を望む声があった ・授乳室やくつを脱いでくつろげるスペース、声を出しても迷惑にならない空間など、親子で利用しやすい環境の充実を望む声が寄せられた ・情報発信やイベント開催、打ち合わせのほか、様々な用途に対応できるオープンスペースを設けるとともに、そこを中心にスペースがゆるやかにつながっているイメージの提案があった

	・図書や情報だけでなく、行政サービスにつなぐ役割、他施設との連携機能をはたすことに期待する意見もあった ・トイレやエレベーターなどの施設面でのバリアフリー、障害者用資料や対面朗読室など障害のある人の図書館利用や読書を支援する取組みのほか、赤ちゃんから高齢者まで多世代の出会いの場として図書館をとらえる考えも示された
ワークショップ時モデルプラン	 図書館モデルプラン（上層）　図書館モデルプラン（下層）

② 図書館関係団体アンケート

実施状況	実施期間：令和 5 年(2023 年)11 月 11 日（土曜）～令和 6 年(2024 年)3 月 31 日（日曜） 回答数：16 団体
実施概要 意見の整理	・現状で、半数以上の団体が月 2 回以上活動をしており、岡町図書館での活動団体が多い状況である。子どもや学校に関連した団体が最も多いが、障害者に関連した団体、大人の読書会といった団体があり、幅広く活動している状況である ・活動を行う上での課題について、ハード面では子どもの絵本を製作する団体からは「作業スペースの確保」、障害者関連の団体からは「勉強会や打合せなどを行う部屋の確保」「点字図書の保管場所」を回答に挙げており、活動を行う上で団体の特性に応じたスペースの確保が課題となっている ・団体内での打合せ人数は現状では 6 人以下が半数弱、その他は主に 14 人以下であり、小～中規模のスペースが必要と考えられる。また、一部に大人数での会議もみられた。実施方法は「対面打合せ（図書館内）」が多いことから、（仮称）中央図書館では、基本的には小規模な会議に対応しつつも、一時的に大人数にも対応できるフレキシブルな会議室の整備が求められている ・活動スペースの広さやイメージについては、現状の集会室と同様の規模を求める意見が多い一方で、講演やイベントを行うためのミニホールやオープンスペースを求める意見が多い ・活動を行う場所は、「閉鎖空間」、「静かな場」だけでなく「オープンスペース」のような性質を希望する回答が多いことから、様々な性質の活動に対応する場所の実現とその住み分けが重要である。また、活動を行う場所は、閲覧スペースに近接、エントランスに近接といった意見が多くみられ、活動を行う場所を図書館内に配置する際、その活動内容について考慮する必要がある ・（仮称）中央図書館で希望する設備は、「団体専用の保管場所」、「紙芝居舞台」、「コピー機」、「マイク」、「プロジェクター」などである

	・人のにぎわいづくりや、まちの活気を高めることに結びつけるアイデアとして、以下のものがあげられた ①多様化するニーズに応じた様々な性質の空間（「子どもの居場所」、「静かな部屋と賑やかな部屋」、「飲食可能なスペース」、「集まって作業できるスペース」）での活動 ②多くの団体と連携した商店街の出店ブースやワークショップ等のイベントの開催 ・若者、子育て世代の来館を促すためのアイデアとして、以下のものがあげられた ①「カフェや学習室、赤ちゃん連れでも安心な絨毯エリア」などの若者、子育て世代向けのスペースの整備、開館時間の延長、お話し会や子供向けワークショップ等のイベント、市民への団体活動の積極的な紹介

③ 中高生アンケート

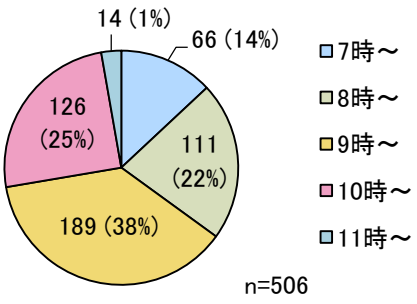
実施状況	実施期間：令和 6 年（2024 年）1 月 15 日（月曜）～5 月 31 日（金曜） 回答数：538 人　方法：アンケート配付。QR コードから web 回答。
実施概要	＜公立図書館の利用状況＞

	ほぼ毎日	1 週間に 1 回程度	2 週間に 1 回程度	1 か月に 1 回程度	1 年に数回程度	はじめて	利用したことがない	合計
人数	4 (1%)	16 (3%)	15 (3%)	37 (7%)	276 (51%)	17 (3%)	173 (32%)	538 (100%)

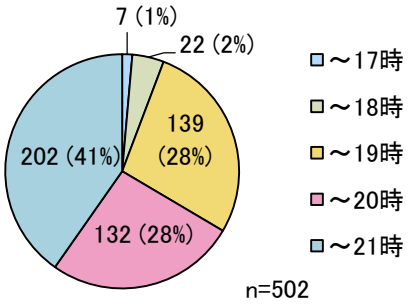
＜（仮称）中央図書館の開館・閉館の時間＞

開館	午前 7 時～	午前 8 時～	午前 9 時～	午前 10 時～	午前 11 時～
人数	66(14%)	111(22%)	189(38%)	126(25%)	14(1%)
閉館	～午後 5 時	～午後 6 時	～午後 7 時	～午後 8 時	～午後 9 時
人数	7(1%)	22(2%)	139(28%)	132(28%)	202(41%)

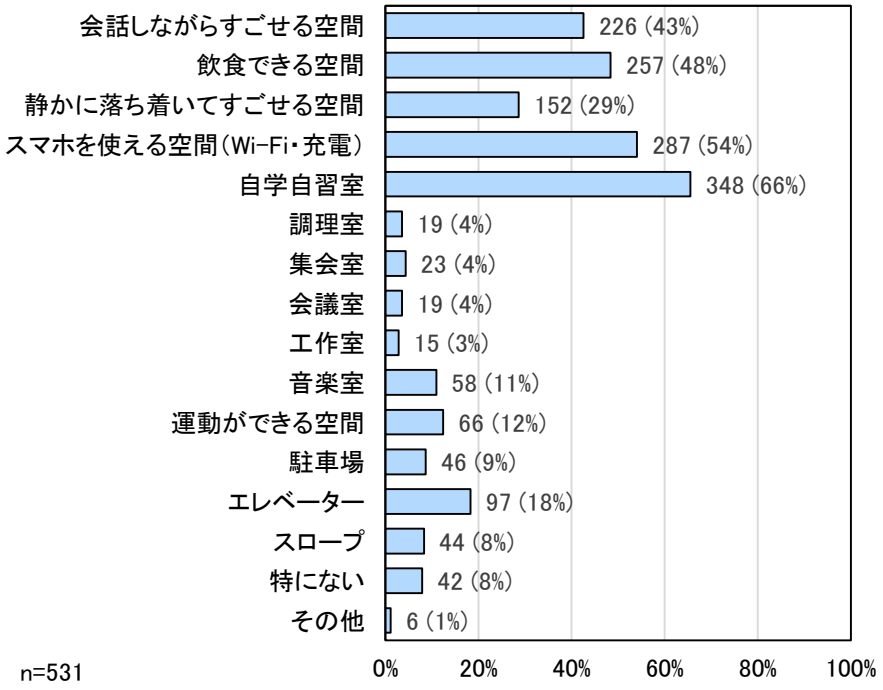
開館時間



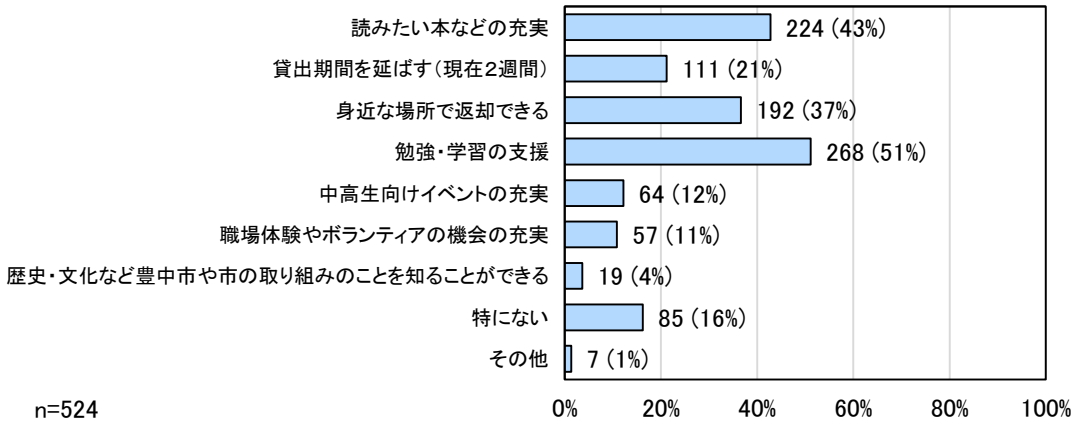
閉館時間



＜（仮称）中央図書館にあれば良いと思う空間・設備＞



＜公立図書館にあれば良いと思うサービス＞



＜（仮称）中央図書館設置＞

主な自由意見
＜快適に滞在＞ ・喋れる自習室と無言の自習室 ＜図書館の機能・スペース＞ ・綺麗で少し広めな自習スペースがあれば嬉しいです ・自習と調べ物が出来る空間が欲しい ・高校受験の時に学校や家以外で勉強できる場所がなくて困った経験があるため、1人で静かに集中出来るスペースがあるととても便利だと思いました。自習スペースができたら私も利用したいと思います ・図書館に中高生用の自習室や自習スペースを作って欲しい ・自販機もあれば良いです ＜利便性＞

	・貸出カードのデジタル化 ・話題の漫画とか、話題のミステリー小説などを置いて欲しい。入荷したという情報をもっとわかるようにしてほしい ・漫画を増やして欲しい。新しい本をすぐに入れて欲しい。人気の本の冊数を増やして欲しい ・蔵書が増え読みたい本を探しやすくなるといいと思う ・夜まで開けてほしい ・学校が終わってから図書館で自習しようと思っても、下校時刻が 16：10 なのに閉館時刻が 17：00 なので、自習室が利用できないことが残念に思います。自習室の利用可能時間を延長していただけると嬉しいです ・土日の開館時間を 9 時から 7 時までにして欲しい ＜図書館の魅力＞ ・駅の近くで、通いやすい明るい雰囲気の図書館なら嬉しいです ＜複合機能＞ ・カフェをつけてほしいです ・チョコザップが欲しいです
意見の整理	＜公立図書館の利用頻度＞ ・「1 年に数回程度（51%）」、「利用したことがない（32%）」が多く、図書館の利用が少ない状況であった（豊中市立図書館以外の利用、高校生は市外在住も含む） ＜利用したことがない理由＞ ・「借りたい本などがない」、「公立図書館が近くにない」、「特にない」がそれぞれ約 34%（複数回答による割合）であった ＜利用経験者の利用上の困りごと＞ ・「自習できない（約 34%※）」、「飲食できない（約 27%※）」、「開館時間・曜日などが合わない（約 26%※）」、「借りたい本などがない（約 22%※）」があった（※複数回答による割合） ＜開館時間＞ ・午前 9 時が約 38%、午前 8 時が約 22%で、現在より開館時間を早める意見が多かった ＜閉館時間＞ ・午後 9 時が約 41%、午後 8 時が約 28%で、現在より閉館時間を延長する意見が多かった ＜空間や設備＞ ・「自学自習室（約 66%※）」、「スマホを使える空間（wifi・電源）（約 54%※）」、「飲食できる空間（約 48%※）」、「会話しながらすごせる空間（約 43%※）」の意見が多かった（※複数回答による割合） ＜これからの公共図書館にあれば良いサービス＞ ・「勉強・学習の支援（約 51%※）」、「読みたい本などの充実（約 43%※）」、「身近な場所で返却できる（約 37%※）」の意見が多かった（※複数回答による割合） ＜自由意見＞ ・自習スペース設置の意見が多かった。また、中高生向けの蔵書の充実や開館時間の延長などの意見があった

④ 子育て世帯アンケート

実施状況	実施期間：令和 6 年（2024 年）1 月 26 日（金曜）～3 月 31 日（日曜） 回答数：286 人
実施概要	＜公立図書館の利用状況（回答者が 1 人で利用）＞

	ほぼ毎日	毎週	2 週間に 1 回程度	1 か月に 1 回程度	1 年に数回程度	はじめて	利用したことがない	合計
人数	0 (0%)	24 (8%)	83 (29%)	50 (18%)	64 (22%)	6 (2%)	59 (21%)	286 (100%)

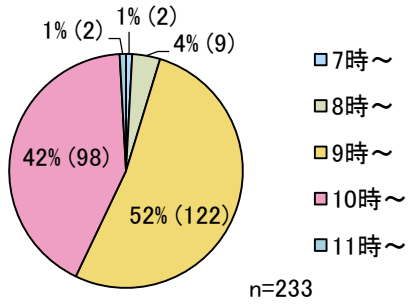
＜公立図書館の利用状況（お子さんと一緒に）＞

	ほぼ毎日	毎週	2 週間に 1 回程度	1 か月に 1 回程度	1 年に数回程度	はじめて	利用したことがない	合計
人数	1 (0%)	22 (8%)	107 (37%)	57 (20%)	43 (15%)	13 (5%)	43 (15%)	286 (100%)

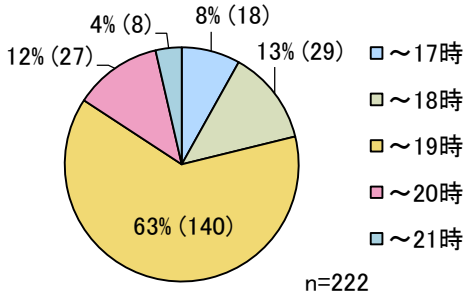
＜（仮称）中央図書館の開館・閉館の時間＞

開館	午前 7 時～	午前 8 時～	午前 9 時～	午前 10 時～	午前 11 時～
人数	2(1%)	9(4%)	122(52%)	98(42%)	2(1%)
閉館	～午後 5 時	～午後 6 時	～午後 7 時	～午後 8 時	～午後 9 時
人数	18(8%)	29(13%)	140(63%)	27(12%)	8(4%)

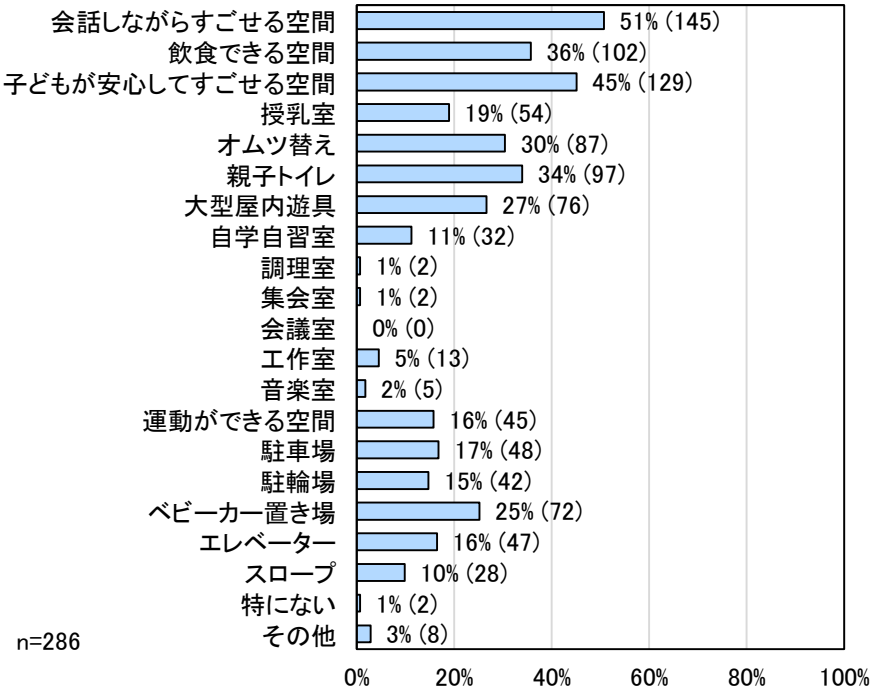
開館時間



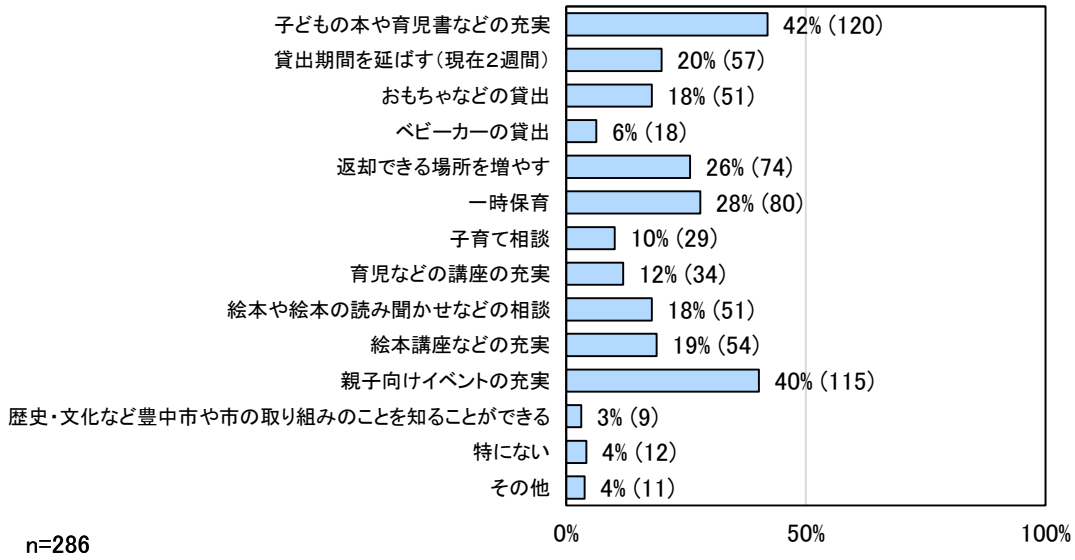
閉館時間



＜（仮称）中央図書館にあれば良いと思う空間・設備＞



＜公立図書館にあれば良いと思うサービス＞



主な自由意見
＜快適に滞在＞ ・新しさやキレイさが充実している図書館 ＜図書館の機能・スペース＞ ・児童館のような子ども同士が放課後に集まれる場所になって欲しい。親も安心して行かせられる配慮が必要 ・子ども専用の出入口を設ける。壁に描かれた絵やライティングなどの工夫で、子どもフロアは遊ぶ楽しさ、驚きに満ちている。子どもの背丈に合わせた家具や配置

	・子どもと出かけて、お弁当を一緒に食べて過ごせるよう飲食できるスペースを設けて欲しい。和歌山市民図書館を利用して特に気にいったので ・図書館に自習スペースを作って欲しい ・授乳室や個室のベビーケアルームの設置 ・子どもが座り、ハイハイできるキッズスペースの設置 ・図書だけでなく、親子で楽しくすごせる場所になって欲しい ・子どもに読み聞かせたり、子ども同士が遊べるスペースがある ・駐車場や駐輪場が充実している ＜利便性＞ ・複数フロアに分かれる場合は、貸出手続きをしなくてもフロア間を移動できる ・ベビーカーの貸出をして欲しい ・乳幼児と行動すると荷物も多くなるため、コインロッカー（無料）の設置 ・借りた本のデータを記録できると子どもの励みになる ・いつも開いていて、朝は 9 時から利用できると、子どもを幼稚園に送った流れで利用できる ・子どもを寝かせておけるスペースや、ベビーカーバウンサーの貸出サービスがあると親も自分の本を選びやすくなる ・図書館に足を運ばなくても図書館で何をしているのか知りたいので、イベントや原画展などの催し情報を SNS 等で知らせて欲しい ・鉄道駅やバス停留所が近くにある ＜蔵書＞ ・外国語（中国・ペルー・スペイン・インドネシア等）の図書（成人書も）を増やして欲しい ・外国語の資料はあるが、現在の図書館は古いものが多い印象。最近のものを読みたい ＜図書館の魅力＞ ・毎月子ども向けの催しがあったり、夏には楽しいイベントがあったり ・本を借りるほかにも、子ども向けのイベントや遊びに行きやすい施設 ・土日にもイベントをして欲しい ・大型屋内遊具があると嬉しい。500 円までなら有料でも利用したい ＜複合機能＞ ・民間企業と協賛で、広くておしゃべりができる、おしゃれなカフェ空間 ・ランチ利用できるお店
意見の整理	＜１人で利用する頻度＞ ・「２週に１回程度（約 30%）」、「１年に数回程度」と「利用したことがない」が約 20%であった ＜子どもと利用する頻度＞ ・「２週に１回程度（約 40%）」、「月に１回程度（約 20%）」、「１年に数回程度」と「利用したことがない」が約 15%であった ＜子どもと利用したことがない理由＞

	・「静かにする必要がある」と「図書館が近くにない」が約 30%、「子どもから目が離せない（安心できない）」と「特にない」が約 20%であった ＜子どもと一緒に利用する理由＞ ・「本などを借りる・返す（約 80%）」、「本などを読む（約 40%）」、「図書館のイベントに参加する（約 20%）」であった ＜子どもと一緒に図書館を利用するうえでの困りごと＞ ・「子どもから目が離せない（安心できない）」と「静かにする必要がある」が約 30%、「特にない（約 20%）」、「子どもと一緒に参加できるイベントが少ない」と「飲食させられない」、「図書館が近くにない」が約 10%であった ＜お子さんと一緒に図書館を利用するうえで、あれば良いと思う空間・設備＞ ・「会話しながらすごせる空間」と「子どもが安心してすごせる空間」が約 50%、「飲食できる空間（約 40%）」、「親子トイレ」と「オムツ替え」、「大型室内遊具」が約 30%であった ＜開館日＞ ・「今のままで良い（約 80%）」であった ＜開館時間＞ ・「9 時から（約 50%）」、「10 時から（約 40%）」の意見が多かった ＜閉館時間＞ ・「19 時まで（約 60%）」、「18 時まで」と「20 時まで」が約 10%と、現在の閉館時間と同じ意見が多かった ＜子どもと一緒に図書案を利用するうえで、あれば良いと思うサービス＞ ・「子どもの本や育児書などの充実」と「親子向けイベントの充実」が約 40%、「一時保育」と「返却できる場所を増やす」が約 30%、「貸し出し期間を延ばす」と「絵本講座等の充実」、「絵本や絵本の読み聞かせなどの相談」、「おもちゃなどの貸出」が約 20%であった ＜自由意見＞ ・子ども用のスペース・飲食スペース・子ども向けイベント、外国語の書籍、安心できる空間などを意見があった

⑤ 障害者アンケート

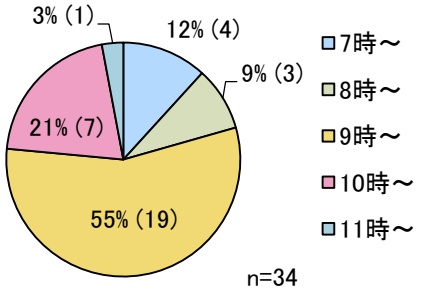
実施状況	実施期間：令和 6 年（2024 年）2 月 14 日（水曜）～3 月 31 日（日曜） 回答数：51 人
実施概要	＜公立図書館の利用状況＞

	ほぼ毎日	毎週	2 週間に 1 回程度	1 か月に 1 回程度	1 年に数回程度	はじめて	利用したことがない	合計
人数	0 (0%)	0 (0%)	1 (2%)	9 (20%)	21 (47%)	2 (4%)	12 (27%)	45 (100%)

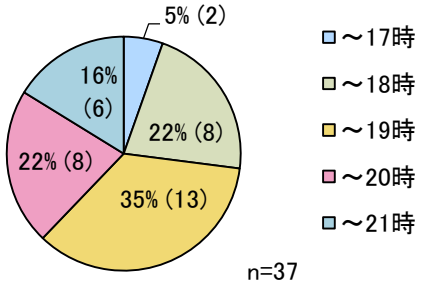
＜（仮称）中央図書館の開館・閉館の時間＞

開館	午前 7 時～	午前 8 時～	午前 9 時～	午前 10 時～	午前 11 時～
人数	4(12%)	3(9%)	19(55%)	7(21%)	1(3%)
閉館	～午後 5 時	～午後 6 時	～午後 7 時	～午後 8 時	～午後 9 時
	2(5%)	8(22%)	13(35%)	8(22%)	6(16%)

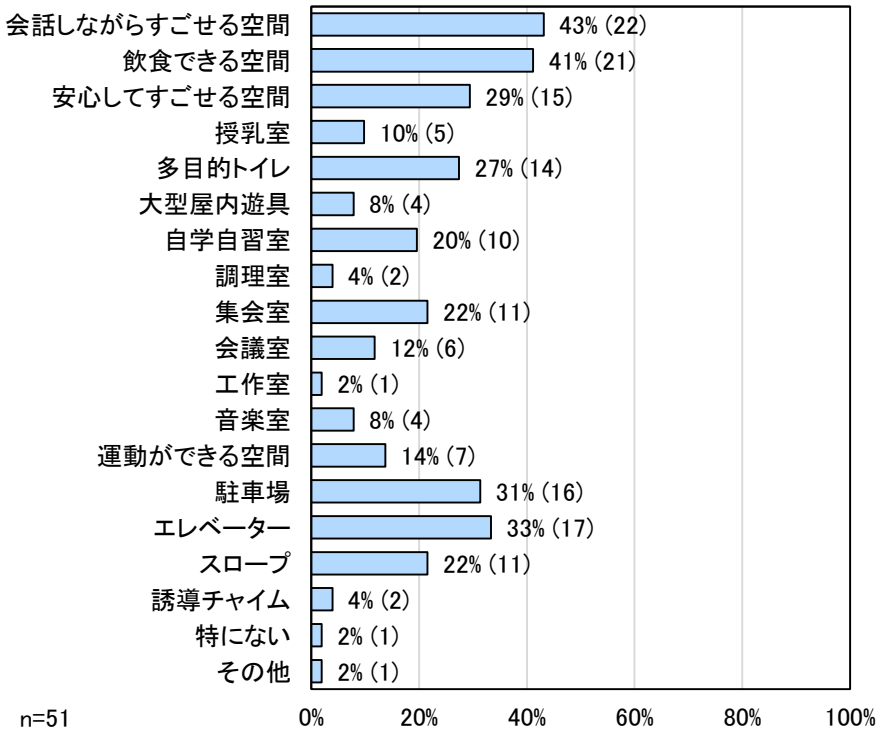
開館時間



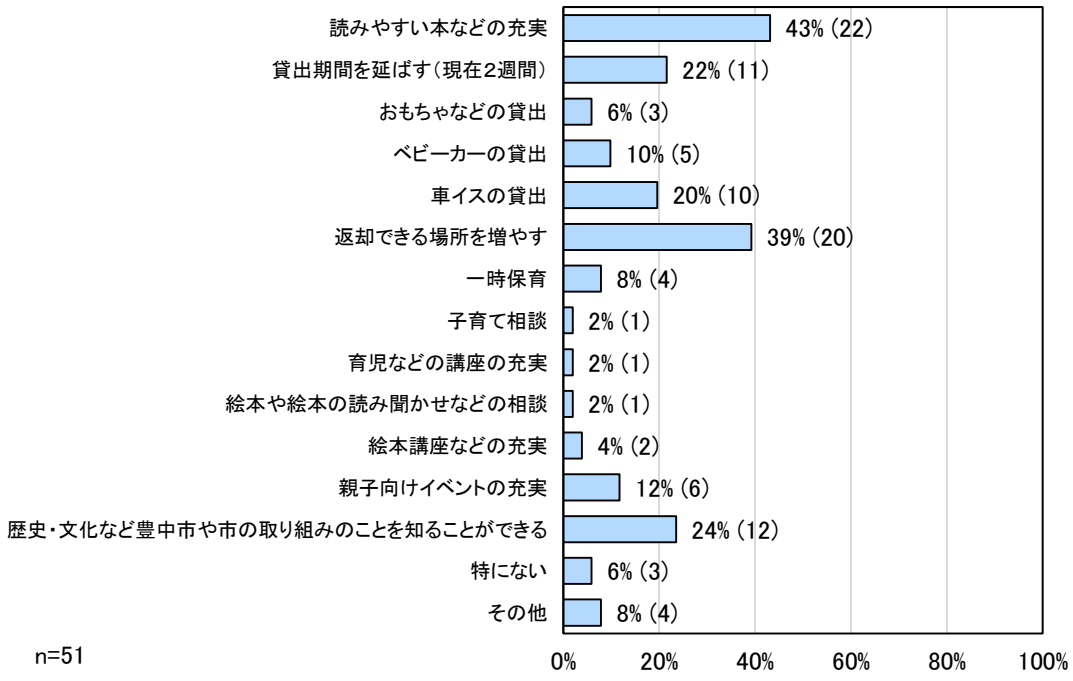
閉館時間



＜（仮称）中央図書館にあれば良いと思う空間・設備＞



＜公立図書館にあれば良いと思うサービス＞



主な自由意見
＜快適に滞在＞ ・バリアフリーの環境 ・誰にも開かれた図書館 ・ヘルプマークを付けている標示者への配慮 ＜図書館の機能・スペース＞ ・従来の図書館の概念を覆すような、利用したくなる図書館をぜひ！ ・多機能トイレの設置 ・会話をしても良い空間 ・声に出して本の内容を説明する必要があるため、声を出しても良い空間 ・DVD を観られるコーナー ・wi-fi を快適に利用できる ・無料駐車場 ＜利便性＞ ・手にとった本を少し読むためのベンチが本棚の前にあると良い ＜蔵書＞ ・インターネットで本などを閲覧したい ・図書館内ではタブレット端末で雑誌が読めるように ・多様な蔵書 ＜図書館の魅力＞ ・利用しやすい場所や環境 ＜複合機能＞ ・カフェや可愛いショップとコラボ

	・作業所や福祉施設でつくった織り製品、紙商品、小物類の展示や販売 ・館内清掃などで障害者雇用している事業所との連携
意見の整理	＜図書館の利用頻度＞ ・「１年に数回程度（約 50%）」、「月に１回程度（約 20%）」であった ・障害のある方は「利用したことがない」と「１年に数回程度」が約 40%、「月に１回程度（約 10%）」であった ＜利用したことのない理由＞ ・「借りたい本などがない」と「図書館が近くにない」が約 30%、「安心して過ごせる空間がない（約 20%）」であった ＜利用する目的＞ ・「本などを借りる・返す（約 60%）」、「本などを読む（約 50%）」、「図書館内で過ごす（約 40%）」であった ＜利用する上での困りごと＞ ・「読みたい本がない」と「図書館が近くにない」が約 30%、「開館時間・曜日などが合わない」と「安心して過ごせる空間がない」、「静かにする必要がある」、「特に無い」が約 20%であった ＜図書館にあればよい空間＞ ・「会話しながら過ごせる空間」と「飲食できる空間」が約 40%、「安心して過ごせる空間」と「駐車場」、「エレベーター」、「多目的トイレ」が約 30%であった ＜開館時間＞ ・「今のままが良い（約 80%）」であった ＜開館時刻＞ ・「９時から（約 60%）」、「１０時から（約 20%）」と、現在の開館時間より早い開館の意見が多かった ＜閉館時刻＞ ・「１９時まで（約 40%）」、「１８時まで」と「２０時まで」、「２１時まで」が約 20%と、現在の閉館時間と同じ意見が多かった ＜あれば良いと思うサービス＞ ・「読みやすい本などの充実」と「返却できる場所を増やす」が約 40%、「貸出期間を延ばす」と「歴史・文化など豊中市や市の取組みのことを知ることができる」、「車イスの貸出」が約 20%であった ＜自由回答＞ ・「バリアフリー化の徹底」、「障害者の作業所・福祉施設との連携」、「ヘルプマークを付けている方の配慮」等があった

参考：図書館協議会（令和４年度）での障害者への聞取り

テーマ	主な聞き取り内容
（仮称）中央図書館	・駅の近くがいいが曽根・岡町・豊中駅のどこも駅周辺が複雑になっていて行けない ・応対・案内をしてくれるスタッフ（何をしに来たか聞いてくれる存在）が必要 ・中央図書館では利用者が集まって話したりできる場所があるといい。自販機も置いてほしい。静まりかえった環境ではなく、普通に音があるほうがいい。カフェのような空間がい

	い ・対面朗読室は順番待ちしなくても利用できるよう複数あってほしい。手引きが無くてもたどり着けるよう、出入り口に近く、障害物のない場所に配置してほしい ・障害者は同じフロアで用事が片付くようにしてあるだけでも良い ・対面朗読室のようなスペースがあればヘッドホンなしでも読める。映画も音だけで楽しめるが、観たいものは有料のものが多い。観た記憶が残っているものは声だけでも楽しめる。新しいものはガイドがないと難しい ・公共施設は最近、駅から近い場所にあるが、道幅が狭い、歩道がない、車の交通量が多いなど危険を感じることが多い。また、点字ブロックの設置が適切でなかったり、メンテナンスが不十分だったり、ひとりで通うには困難を感じることもある。館内で移動する動線についてもしかり。図書館の再編を検討するのであれば、動線の安全について議会や行政できちんと検討して欲しいと思っている ・中央図書館では車いすの回転ができたり、通り抜けができたりするエレベーターにしてはどうか ・駅から図書館の距離は少々離れていても大丈夫。歩行の援助もいただけるので。駅からバスに乗り換えるのは困る。どこから乗るのか探すのにも苦労するから、利用のハードルがあがると思う ・誘導チャイムは便利。公共施設ではエレベーターにもよく付いている。地下鉄の地下出入口にある。信号だけでなく、駅名まで含めて案内してくれるものもある。人感センサーで対応するものもあって助かる。そこに何があるのか知らせてくれるほうが嬉しい。性別で分かれる場所などでは信号音だけでは足りない ・図書館の中でトイレの誘導などはトイレ内まで案内、説明しているか。ヘルパーさんに手洗い場所や、便器の位置、リモコン操作についてまで説明してもらうこともある。身体介助がある場合はどうか。トイレの介助は、まわりの声かけも必要。事故が起きないよう十分な配慮を ・映画を観るスペースが欲しい。もしくは、音声ガイド付きの映画上映。また、デイジー図書の試聴機器があれば、図書館で試聴して気に入ったものを貸出し、自宅で聴くということもできる ・シネマデイジーは映画の本編に解説を付けてあると思うが、中央図書館でそうしたものを上映する機会があるなら参加してみたい ・アクセスは駅から近いと嬉しい。自分で企画したイベントでも会場を駅近であることは絶対条件。駅から離れると、ヘルパーの手配など手間がかかり、それだけで行く気持ちが削がれる ・アクセスの面では、千里図書館と蛍池図書館は駅から直結のため行きやすい。岡町図書館は視覚障害者の立場からは遠い。自転車や自動車と同じ道を歩くのは緊張度合が違ってくる ・駅からの歩道が確保されて点字ブロックがあったとしても、今のように図書館と最寄りの駅間の送迎があるのは大事にして欲しい。立地条件も大事だが、ソフト面での支援も残して欲しい ・点字図書や録音図書がそこで読める環境を整えてほしい ・駅近であれば時間の無駄もないし、待ち時間も有効に活用しやすい ・名古屋市鶴舞中央図書館は公園にあるが、点字ブロックが公園内も敷いてあり、図書館に行くついでに公園を散歩することもできる。点字ブロックを有効に活用している例だと思う ・ワークショップなど、視覚障害者の意見を計画に取り入れる工夫が必要 ・急行電車が停車することから豊中駅前が便利ではないか

	・1 人で電車に乗れないので、最寄りの豊中駅前にあると助かる ・図書館へ行くとしたら、誰かに付き添ってもらう。見える人より障害が大きい、行きにくい面がある。練習すれば 1 人で行けなくはない。場所は駅から近い方が良い ・館内はカウンターなり職員さんがいるところまで点字ブロックがあるほうが便利 ・館内の棚の配置とか覚えるまでは、職員に案内してもらえると助かる ・自宅の近くにできると嬉しい。岡町や曽根は駅から点字ブロックが続いているので便利だが、車や自転車が多く歩きにくさは感じる。歩道があって点字ブロックがある道だと、1 人で行動するようになっても安心できるが、中学校までの通学路など点字ブロックのあるエリアとないエリアがあり悩ましい ・岡町駅から図書館まで点字ブロックがつながっていません。リブ式区画線（でこぼこ白線）が途中まで敷設されていますが、図書館の入り口までは、それもつながっていません。 ・対面朗読室がすくなく、予約がとれないことがあります ・岡町図書館の対面朗読室は隣が警備員休憩室になっており、休憩の雑談声がきこえて、対面朗読に集中できません ・杖や車イスを使っていると、20～30 分かかる距離では日常的に利用するのは難しい
図書館の再編	・最寄りの図書館が引っ越したらもう来館できない。私が図書館に来館できているのも近くに住んでいるから。見えていたころと場所が変わってしまうとわからなくなってしまう。岡町図書館や千里図書館は入口がわからない ・対面朗読を最寄りの図書館で利用できなくなる点については気にならない。サービス自体がなくなると困るが ・中央図書館にすべてを集約すると、いろいろ弊害は予想される。中央図書館への集約を考えるなら、安全、安心してアクセスできる道や内装環境を十分考えてもらいたい ・読書の方法としてデータをダウンロードして聞くのと分けて考えているから、歩いて行ける生活圏内に公共図書館があって、対面朗読を利用できるのは自分にとっては大きなこと。そこでボランティアの方が読んでくれるサービスは残して欲しい。千里図書館も行けないことはないが、阪急沿線の中央図書館は遠く、最寄りの図書館での対面朗読は残って欲しい ・身近なところ、公民館等でも図書に触れることができれば、自分たち以外にも、例えば子どもなどの利用にも適しているのではないか

⑥ 豊中市 LINE アカウント登録者アンケート

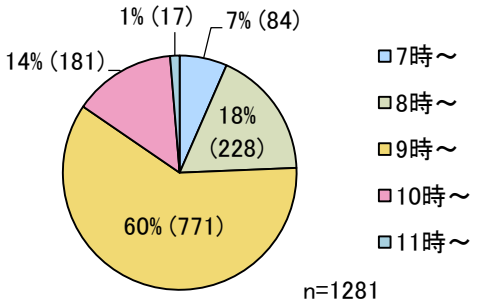
実施状況	実施期間：令和 6 年（2024 年）6 月 7 日（金曜）～6 月 11 日（火曜） 登録者数：69,963 人（うちブロックしている人には未配信）、回答数：1,281 人
実施概要	＜過去 1 年間の市立図書館の利用状況＞

	ほぼ毎日	1 週間に 1 回程度	2 週間に 1 回程度	1 か月に 1 回程度	1 年に数回程度	1 度も利用していない	わからない	合計
合計(人)	11 (1%)	172 (13%)	310 (24%)	236 (18%)	310 (24%)	229 (18%)	13 (1%)	1,281 (100%)
19 歳以下	0	0	1	0	2	1	0	4
20 歳代	0	3	7	12	20	20	2	64
30 歳代	2	32	92	52	67	69	2	316
40 歳代	5	39	70	62	88	39	4	307
50 歳代	2	26	66	52	80	46	1	273
60 歳代	2	44	41	39	34	32	2	194
70 歳代	0	26	30	15	18	20	2	111
80 歳以上	0	2	3	4	1	2	0	12

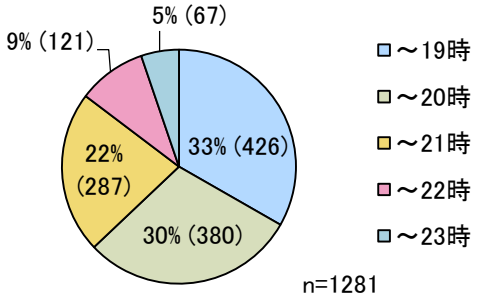
＜（仮称）中央図書館の開館・閉館の時間＞

開館	午前 7 時～	午前 8 時～	午前 9 時～	午前 10 時～	午前 11 時～
合計（人）	84(7%)	228(18%)	771(60%)	181(14%)	17(1%)
閉館	～午後 7 時	～午後 8 時	～午後 9 時	～午後 10 時	～午後 11 時
合計（人）	426(33%)	380(30%)	287(22%)	121(9%)	67(5%)

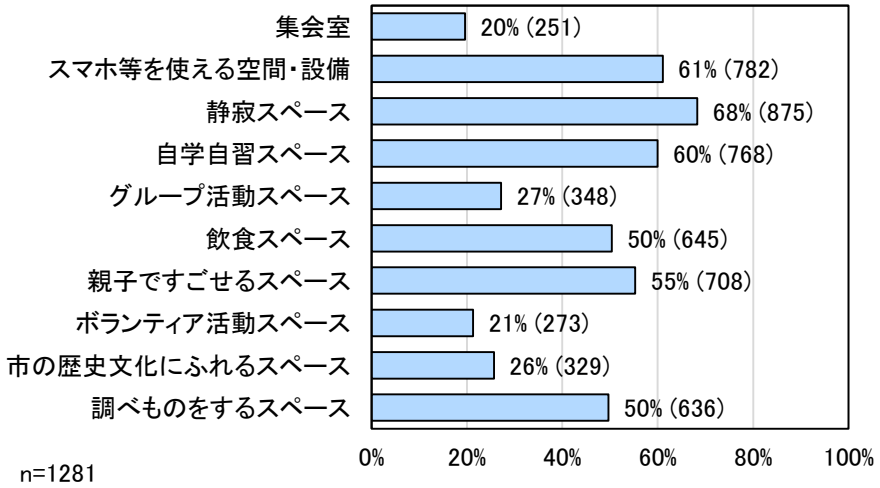
開館時間



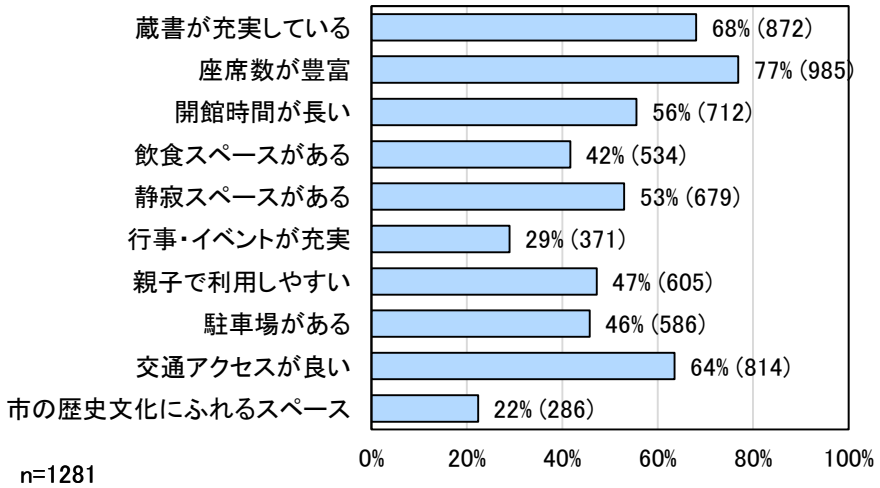
閉館時間



＜（仮称）中央図書館にあれば良いと思う空間・設備＞



＜（仮称）中央図書館がどのような図書館であれば利用してみたいか＞



＜（仮称）中央図書館に期待すること＞

主な自由意見
＜快適に滞在＞ ・子どもが声を出しても気兼ねなくすごせるような工夫が欲しい ・子どもスペースと大人スペースをフロアで区切り、子どもが静かにしなくて良い図書館を実現して欲しい ・ゆっくりと集中できるスペースがあれば良い ・柔らかい椅子でゆったりと静かに本が読めるようなスペースが欲しい ・賑やかに調べ物をしたりするグループ学習に適した空間と、静かに調べ物をしたりする空間を明確にわけて欲しい ・コーヒーでも飲みながらゆっくりと読書できる空間が欲しい ・ひとりですごしたい方や子育て世代の交流をしたい方など様々な人に寄り添った図書館であれば地域の憩いの場になる ＜バリアフリー＞

・障害者ヘルパーとして利用者と図書館をよく利用する。座席が少なく座ることができないと床に座ってしまうこともある。読む本は児童書が多く、児童書エリアが狭いと周りの子どもを怖がらせてしまうこともあり、余裕のある空間で、座る場所が多いと助かる
・車椅子ユーザーでも利用しやすいように駐車場や館内を整備して欲しい
・不登校の子どもが居られる場所や、繊細さんや、多動さん、大きな声を出してしまっても叱られないような場所になれば良い
＜図書館の機能・スペース＞
・中高生がゆったりと自主学習できるスペースが欲しい
・若者がしっかりと勉強できるスペースを作って欲しい。e ラーニングなども利用できるよう Wi-Fi を完備した自習室が必要（廉価であれば有料にしてもかまわない）
・小中学生が放課後や長期休み期間にすごせるスペース（友達と一緒に宿題をする、おやつやお弁当を食べるなど）があるとうれしいです。安心できる居場所が欲しい
・小さな子ども用に隠れ家のようなスペースや、裸足で寝転がって多少体を動かしながら、本も手に取れるスペースも楽しい
・子どもに絵本を読ませてあげられる場所にして欲しい。おやつやお茶などを飲食させるスペースがあったり、授乳やおむつ替えスペースが充実していたり、靴を脱いで座って読むスペースがあると嬉しい
・視聴覚室・視聴覚スペースもあったら、目の不自由な方や小さな子どもでもオーディブルのような本の視聴もできて良い
・リモートワークができるスペースが欲しい
・読書だけでなく、自習や仕事のための作業ができるような図書館にして欲しい
・ゆっくり 1 人で調べ物できるスペースが欲しい。人の目を気にせず、まわりの物音など気にしなくても良い場所が必要
・隣同士や前後の座席が近いと読書や自習に集中できないので 1 人分の空間はしっかり確保して欲しい
・自習スペースなどは遅くまで開けて欲しい
・予約図書の引き取りだけでも早朝や夜間にできると便利
・返却ポストが開館時も使える
・駐輪場・駐車場の充実
＜図書館の魅力＞
・本のある空間が魅力的に見える印象の図書館だと行ってみたい
・街のシンボルとなるような、住みたくなるような施設にして欲しい
・映えるようなオシャレな雰囲気。洗練された様式や内装なら若い層も必ず足を運ぶ
・明るく、自然光がふりそそぐよう、開放的なつくりにして欲しい
・近隣自治体の図書館ではしていない独自性をうちだして欲しい
・岡町図書館でスタッフがよく声をかけてくれたり、おすすめの絵本を紹介したりしてくれるので、中央図書館もそういうあたたかい雰囲気になるように
・この図書館があるから豊中市に住みたいと思わせるような素敵なデザインの建物にして欲しい
・蔦屋書店のようにスタバなども併設して欲しいです

	・安い予算で変な建物を作るのではなく、気持ちのよい素晴らしい図書館にして欲しい ＜文化の拠点＞ ・曽根には文化の拠点となる場所があるために、発表ではなく創作やクリエイター、アーティストの活動を支える機能があれば良い ・文教都市豊中の文化活動の拠点となる施設を期待する ・読み聞かせや、童謡、工作などのイベントを行ったり、ボードゲームやパズルをはじめ、子どもに適切なおもちゃの貸出しを行ったり、その場で借りて遊べるようにすると良い。遊びの提供を積極的に行なっていく拠点にすべき ・豊中市の様々な側面からみた歴史を知るためのコーナーがあれば良い ・兄弟都市（沖縄市）の文化にふれられる仕掛け（パネルや記念品展示） ＜中央館の蔵書＞ ・普段読めない専門書などの本があればうれしい ・趣味の本が少ない。例えば植物図鑑の内容がもう少し高度な本が欲しい ＜ボランティア＞ ・本の補修などボランティア的な関わりをしたい ＜複合機能＞ ・図書館のみではなく、商業施設と一体化した図書館であって欲しい ・複合機能を活かすため、屋内型のイベントができるスペースが欲しい ・既存の図書館の延長ではなく、本を中心にした「楽しめる施設」が良い。近所の人が日常生活内で行くだけではなく、休みの日などにわざわざ出かけて半日・1 日楽しめる施設としてあって欲しい ・運動施設や、飲食店、プレイルーム、児童館など ＜アクセス性＞ ・バリアフリーで誰もがアクセスしやすいように ・駅の近くだと仕事終わりに寄れるのがうれしい ・幼児から高齢者まで幅広く利用でき、初めての利用でもわかりやすい導線や説明が必要 ・少し遠くても、駐車場があり、ゆったりした空間で本を読めるのなら通ってみたい
意見の整理	＜回答者の年代＞ ・「30 歳代」、「40 歳代」がともに約 25%、「50 歳代（約 20%）」、「60 歳代（約 15%）」、「70 歳代以上（約 10%）」、「20 歳代以下（約 5%）」であった ＜開館時間＞ ・「午前 9 時（約 60%）」、「午前 8 時（約 18%）」と現在の開館時間より早い開館の意見が多かった ＜閉館時間＞ ・「午後 7 時（約 33%）」、「午後 8 時（約 30%）」、「午後 9 時（約 22%）」と現在と同時間及び閉館時間の延長の意見が多かった ＜空間や設備＞ ・「静寂スペース（68%※）」、「スマホ等を使える空間・設備（61%）」、「自学自習スペース（60%※）」、「親子ですごせるスペース（55%※）」、「飲食スペース（50%※）」、

	「調べものをするスペース（50%※）」と、静かに読書や調べものをする空間の意見や目的に応じた空間の意見が多かった（※回答者 1,281 人中の選択者数の割合） ＜利用してみたくなる中央館機能＞ ・「座席数が豊富（77%※）」、「蔵書が充実している（68%※）」、「交通アクセスが良い（64%※）」の意見が多かった（※回答者 1,281 人中の選択者数の割合） ＜自由意見＞ ・多世代が快適にすごせるような図書館や機能を望む声が多い。子育て世帯や児童・生徒が気兼ねなく利用できるような滞在環境を重視する意見が多い。ゾーニングによって来館者のニーズに合った利用ができたり、開館時間を拡げることでライフスタイルに合わせた利用を可能にしたり、利用の多様性に応える内容が多かった

⑦ 図書館利用者アンケート（来館者）

実施状況	実施期間：令和 6 年（2024 年）7 月 27 日（土曜）～8 月 4 日（日曜） 回答数：295 人　方法：休館中の螢池図書館を除く図書館窓口配布回収・web 回答併用
実施概要	＜回答者の年齢＞

	就学前	小学生	中学生	高校生	19 歳以下	20 歳代
合計（人）	2 (1%)	25 (8%)	3 (1%)	2 (1%)	1 (1%)	5 (2%)
	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳代	80 歳以上
合計（人）	27 (9%)	36 (12%)	59 (20%)	63 (21%)	53 (18%)	16 (6%)

＜過去 1 年間の市立図書館の利用状況＞

	ほぼ毎日	1 週間に 1 回程度	2 週間に 1 回程度	1 か月に 1 回程度	1 年に数回程度	はじめて	わからない	合計
合計（人）	20 (7%)	127 (43%)	97 (33%)	31 (10%)	13 (4%)	1 (1%)	6 (2%)	295 (100%)

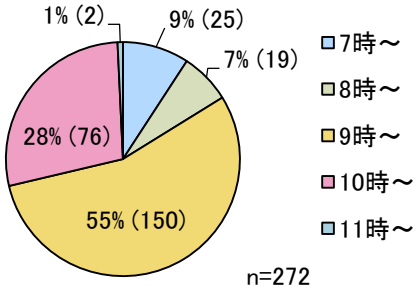
＜（仮称）中央図書館の開館日＞

開館日	今のままでよい	増やしてほしい	減らしてほしい	その他
合計（人）	160(60%)	98(37%)	0(0%)	10(3%)

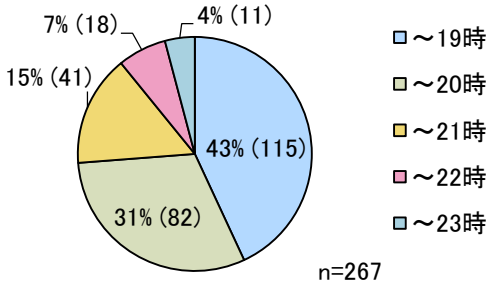
＜（仮称）中央図書館の開館・閉館の時間＞

開館	午前 7 時～	午前 8 時～	午前 9 時～	午前 10 時～	午前 11 時～
合計（人）	25(9%)	19(7%)	150(55%)	76(28%)	2(1%)
閉館	～午後 7 時	～午後 8 時	～午後 9 時	～午後 10 時	～午後 11 時
合計（人）	115(43%)	82(31%)	41(15%)	18(7%)	11(4%)

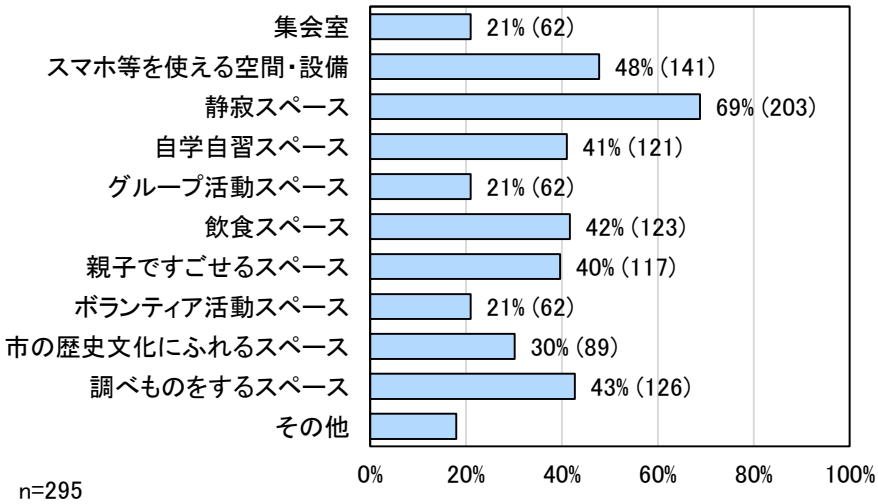
開館時間



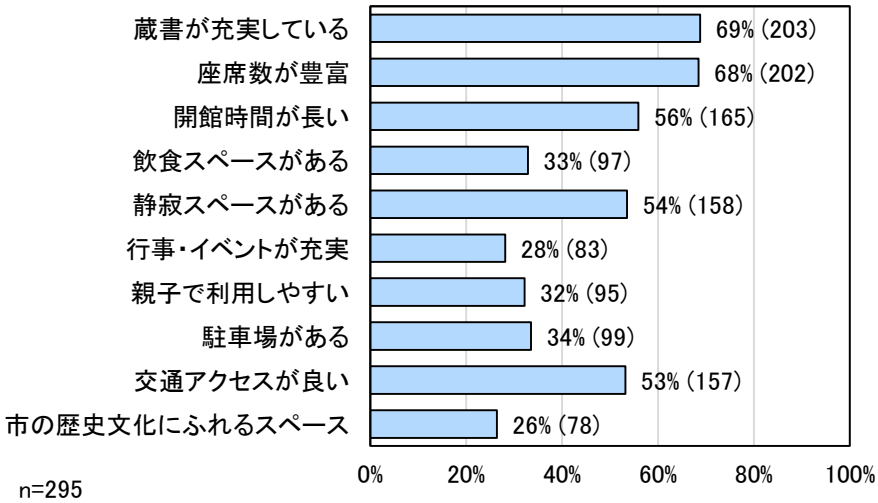
閉館時間



＜（仮称）中央図書館にあれば良いと思う空間・設備＞



＜（仮称）中央図書館がどのような図書館であれば利用してみたいか＞



＜（仮称）中央図書館に期待すること＞

主な自由意見
＜快適に滞在＞ ・オニクルのような、子ども向けスペースや屋外で本を読むスペース、お弁当の移動販売などがあると嬉しい ・新聞閲覧スペースを隅の方に配置して欲しい ・ゆっくりくつろげ、仲間が集える場所になって欲しい ・読書だけではないすごし方。足湯やランチができる ・死角の少ない安心してすごせる館内にして欲しい ・子どもが大きな声を出してもいい場所でもあり、静かに集中できる場所でもあるとうれしいです。どちらのスペースも欲しいです ・静かにひとりになれる空間が欲しい ・中央図書館では座席に余裕があり、家族など数人で座れる場所や個人で座れる場所と分けてあるのもいい ＜開館日・開館時間＞ ・開館日を多く、開館時間を長くして欲しい ・今まで利用できなかった人が利用できる開館日・開館時間の設定 ＜バリアフリー＞ ・セルフ貸出などの機会の使い方のサポートが必要 ＜図書館の機能・スペース＞ ・第一優先候補地周辺は未就学児がすごせるスポットが少ないため、広く充実したキッズスペースが欲しい ・授乳室や子どもトイレを設置して欲しい ・自習スペースの充実 ・駐車場・駐輪場を充実させて欲しい ・図書除菌器を設置して欲しい ・予約受取ロッカーの設置 ・あまり余計な機能を付けないで欲しい ・中央図書館は地域の図書館をしっかりサポートする ・映像鑑賞スペース ＜図書館のサービス＞ ・読書促進につながるイベントの実施 ・団体へのサービスの継続 ・時間外でも予約を受け取ることができる ・周辺の施設と連携し、サービスやイベントを充実させて欲しい ＜図書館の魅力＞ ・蔵書の質のよさ、学校との連携など、豊中の図書館の取組みを引き続き充実させる ＜中央館の蔵書＞ ・豊中市の歴史的資料は、他では残らないのでぜひとも中央図書館に蓄積して欲しい ・外国語を母語とする子ども向けの洋書や洋雑誌を充実 ・医療関係の図書の充実

	＜ボランティア＞ ・図書館ボランティアの活動や打ち合わせできるスペースが必要 ＜複合機能＞ ・自販機だけでなく、書店との連携 ・小さなカフェ ＜アクセス性＞ ・無料の巡回バスなど市内のどこからもアクセスしやすいようにして欲しい ＜運営＞ ・民間委託せず、市が直営して欲しい
意見の整理	＜回答者の年代＞ ・「50 歳代」、「60 歳代」がともに約 20%、「70 歳代以上（約 24%）」、「中学生から 20 歳代以下（約 5%）」であった ＜開館時間＞ ・「午前 9 時（約 55%）」、「午前 8 時（約 7%）」、「午前 7 時（約 9%）」と、現在より開館時間を早める意見が多かった ＜閉館時間＞ ・「午後 7 時（約 43%）」、「午後 8 時（約 31%）」、「午後 9 時（約 15%）」と、現在と同時間及び閉館時間の延長意見が多かった ＜空間や設備＞ ・「静寂スペース（69%※）」、「スマホ等を使える空間・設備（48%※）」、「調べものをするスペース（43%※）」、「飲食スペース（42%※）」「自学自習スペース（41%※）」、「親子ですごせるスペース（40%※）」と、静かに読書や調べものをする空間の意見や目的に応じた空間の意見が多かった（※回答者 295 人中の選択者数の割合） ＜利用してみたくなる中央館機能＞ ・「蔵書が充実している（69%※）」、「座席数が豊富（68%※）」、「交通アクセスが良い（53%※）」の意見が多かった（※回答者 295 人中の選択者数の割合） ＜自由意見＞ ・これまでの利用環境に加え、より広い利用者層の期待に応えらえるよう、これまでにない機能を求める声が多い。多世代が快適にすごせるような館内環境や機能を望む声や、子育て世帯や児童・生徒が気兼ねなく利用できるような滞在環境を重視する意見もあった。ゾーニングによって来館者のニーズに合った利用ができたり、開館時間を拡げることでライフスタイルに合わせた利用を可能にしたり、利用の多様性に応える内容も多かった。また、館内の安全性の確保やセルフ貸出機の使い方サポートなど、日常的な利用経験からの提案もあった

⑧ 市民ワークショップ２

実施状況	実施期間・場所： 令和 6 年（2024 年）10 月 13 日（日曜）　岡町図書館 10 月 20 日（日曜）　岡町図書館 10 月 27 日（日曜）　岡町図書館 いずれも 10 時 30 分～12 時 30 分 実施回数：3 回、参加人数：延べ 45 人
実施概要	□　令和 5・6 年度のアンケート結果等に関する意見交換 ＜多様な意見の集約＞ ・図書館にいろいろな機能が求められていることを知り、例えば、飲食可、会話可のスペースなど、図書館についての考え方を変えねばならない。逆に、静寂スペースも求められており、これらの意見の整理が必要 ・人とつながる図書館を求める声も多く、イベントや活動場所の確保がいる。一方で静かな環境が求められている。そういう点に気づいた ・静寂スペースの希望もある。図書館は誰でも来られる場所で、一人で過ごせる場所も必要 ＜レファレンス＞ ・司書の専門性やレファレンスが発揮されるような図書館 ・入門書も専門書も混配されているため一般の人が目的の資料を探すのは簡単ではない。だからレファレンスサービスが大切 ・中央館はより機械化することを望む。貸出や返却などの工程は機械化したほうが良い。人材はレファレンスに充てる ＜司書との関わり＞ ・司書との関わりが大事。対面でのやりとりが大事なので、司書を減らさないことを望む。大切なのはレファレンスであり、それこそが公共図書館の役割である ・司書の専門性をアピールするイベントを行う（例：司書がすすめる児童書の紹介等） ・職員と接する機会が減っている。職員がフロアに出やすくなるようにする ＜子育て＞ ・子連れで長時間過ごす場所とするなら、ただ本を借りるだけでない場所づくりが必要。 ・子連れの人が行きやすい場所であることは必須 ・子育て中の人には話すことがストレス発散につながることもある。豊橋市のココニコのように子育て支援をおこなう機能を参考にしてはどうか ・子どもがいると借りる本も多くなり、荷物が増える。車で行けると便利。岡町図書館には駐車場がなく、中央館ではたくさんの駐車場が必要 ＜イベント＞ ・図書館ならではのイベントがよい。中央公民館や文化芸術センター、アクア文化ホールも近くにあるので、適宜活用できればよい ・周辺施設のイベントに加え、図書館もイベントを行えばエリア全体のイベント開催が充実する。たくさんの人が集まり、交流も生まれ、交流が盛んになる ・イベントの広報が弱い。告知に SNS（インスタグラムや X）を活用すべき ＜地域資料＞ ・市には博物館がなく中央館では郷土資料（地域資料）を大切に保存しほしい

	・郷土資料（地域資料）は、入口付近に展示されているとよい ・地域の偉人や特産品に関連した資料を成人向けのコーナーだけでなく、子どものスペースにも設けてはどうか。地域を知る機会を提供すべき ＜まちのシンボル＞ ・まちのシンボル、文化の拠点となる図書館 ・豊中市のイメージアップにつながる施設をつくり、全国へのアピールを期待する ＜飲食＞ ・飲食「できる」スペースがあってもよい。飲食「しながら」図書館の本を読むことは反対 ・カフェは図書館外部にあれば良い。館内になくても良く、複合機能を活用すべき ・ここ数年は夏の暑さが尋常ではない。マイボトル用の給水機がほしい ＜自習室＞ ・自習室は本来の図書館機能ではない。スペースが限られ、こうした要望の折り合いがいる ・自学自習室はいろいろな人が使えるように改めて多世代で共用したい。思い切って、時間帯や曜日で利用対象を制限してもよいのでは ＜各階の使い方＞ ・中央館のフロアが２層に分かれるなら、別フロアに行くときに貸出手続きをしなければいけないのは不便。諸室の配置によって、不便さを解消できないか ・１階には図書館が入居していることを示す表示が必要 ＜複合施設＞ ・図書館への書店併設は、図書館で何度も借りて気に入った本を書店で購入する人も多い ・新刊書店の併設を検討して欲しい。図書館に来る人が近くの書店で本を買う効果がある ＜時間帯別の運用＞ ・中高生やビジネスパーソンは 19 時閉館だと行けない ・同じ場所を日時で使い分けて多世代・多目的で共有できるようにしてはどうか ・警備巡回や防犯カメラによって館内の安全も確保できる □　中央館の役割や機能を踏まえ、サービスや諸室のあり方等に関する意見交換 ＜中央館としての支援・連携＞ ・学校図書館を支えるのは地域館や分館で、中央館はその地域館や分館を支える。全体を見渡すことが大事 ・図書館と郷土資料館、文書館、他市の図書館・資料館との関係性。特に市内の郷土資料館・文書館との資料の共有・連携はしたほうがいよい ・螢池図書館は蔵書も司書の人数も減ると思うので、中央館との連携ができるように、また直接中央と話ができるようになるとよい ＜学校連携＞ ・学校図書館支援ではなく学校図書館と連携する地域館を支援するのが中央館ではないか。学校教育で使える資料は共に学んでいかなければならなくて、豊中市の学校図書館は、支援から連携につながってきた経緯がある ＜他機関連携＞ ・他機関連携は、ほかの施設だけではなく、市役所のいろんな所・相談窓口等へつなぐこと、そのための資料提供が必要

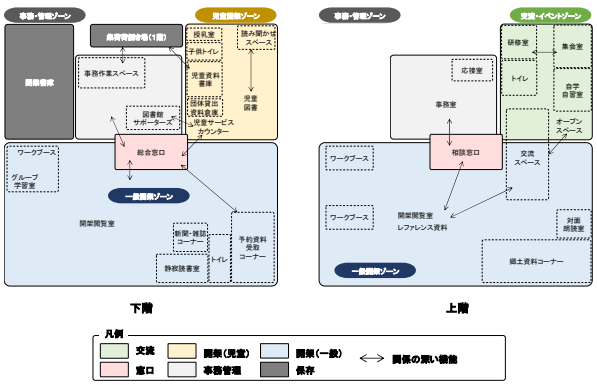
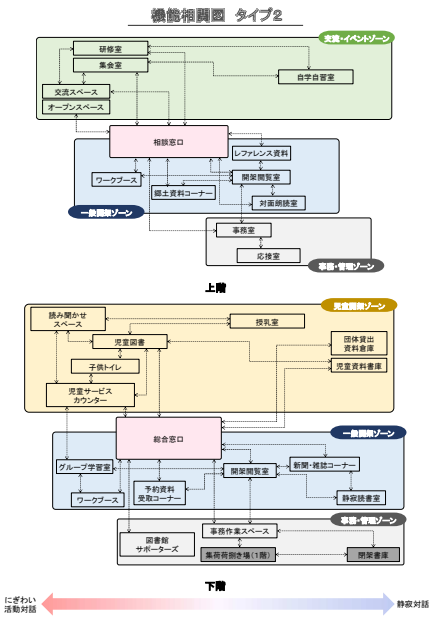
	・団体貸出は、文庫・保育所・高齢者施設などへのつながりのバックアップもする ・文化芸術センターや中央公民館と連携して、曽根駅の地域一帯を生涯学習センターの機能をもたす ・来てもらうことが重要で、その先は必要に応じて連携していければいい。地域包括ケアもあるが、仕組みを整えていく必要がある ・豊中市には大阪大学と大阪音楽大学がある。それぞれの大学の専門分野を活かした連携も考えてもらいたい ・民間との連携など、ビジネス支援にもつなげていくものがあってもいい ・施設連携・他機関連携・保育は他機関（施設）との連携として、1 つにまとめてはどうか。分ける必要性があまりないように感じる ＜司書＞ ・調査・相談・調べものは、司書のレベルアップ・増員を行い、社会問題の解決などにも対応できることが必要 ・自ら学ぶ場、やりたいという気持ちを大切にしたい。設備の用意でなく、学ぶ人をバックアップしてくれる人が欲しい ・司書のおすすめ本の棚や展示が継続的にあれば、来館の動機にもなる。図書館に対し親近感もわく。公平性も考えないといけないと思うが、もっと自由度があってもよい ＜資料の提供＞ ・社会課題や豊中の課題になっている資料をいれてほしい。社会的な課題の資料が少ない ・ニュースなどで話題になったものをすぐに資料として出せるように ・市民もリクエストをするなど、必要なものを知らせていくことも大事 ・専門書も人気の本もみんなあればいいとは思うが、そんなに詰め込みができるのか ・高齢者にとっても新聞を閲覧できるスペースは必要。また若い世代は新聞に触れる機会が少ないが、図書館にあれば新聞を読むことにつながる ＜情報発信＞ ・中央図書館専用の SNS（X やインスタグラム等）があるとよい ＜データベース＞ ・データベースはこれから必要である ・最新データベースをそろえるというのは、あまり想像できない。それよりも、国会図書館のデジタルコンテンツなどを簡単にみられるようになるとよい ・VR でアバターが書架や普段は入れない書庫などをブラウジングできるとよい ・ゆったりしたスペースとあるが、建築予定では 2 フロアで考えると、あれもこれも詰め込むことはできない。データベースの充実。地域の図書館からも中央図書館のものが利用できるような、豊中一帯のデータベースを総括するような部署があればいい ・データベースの利用について、有料のデータベースが閲覧できるスペース（専用の部屋）があって、いつでも使えるようになっているとよい ・VR のような最新技術（ICT サービス）は、図書館の魅力向上につながるのではないか ＜閲覧＞ ・座席の予約は不要。フレキシブル性がなくなる。庄内図書館を参考にするとよい ＜市民参加＞ ・市民と司書の交流が大事。一緒に育っていくことで、新たなサービスが見えてくる

	・イベントには市民の参加やボランティアをぜひ入れてほしい ・図書館はボランティアの育成をしており、そのプロセスが素敵だなと思った。成長する図書館であってほしい ・団体貸出のスペース、ボランティアが話し合える場所は必要 ・ボランティアでも、本の案内や相談にのれることがあると思う。ボランティアスタッフを募ってはどうか ＜子育て支援＞ ・にぎやかで走ったりする子どもでも、興味を持った子が来られる場所にする ・幼児に対して、図書館にある知識にどのようにふれてもらうか見せ方・切り口が大事 ＜生涯学習＞ ・子どもからシニアまで学び続けられる ・年配の方だけでなく、リスキリングでも図書館の役割は大切ではないか ＜若者支援＞ ・中高生のための場所、活動スペースの充実。これから利用してもらいたい若い方へ来館を促すきっかけづくり、視点があってもいいのではないか ・開館時間は、将来の利用者（若い世代）が希望する、20～21 時までとしてはどうか ＜複合施設＞ ・商業施設との連携はものによってはいいが、仮に 1 階にスーパーが入ると 2・3 階が図書館では一体感が出るか ・図書館フロアでは図書館でしかできないことをしてほしい。カフェが欲しいなら商業施設に、部屋貸しは公民館にまかせる ・規模の限界があるので優先順位をどうするか。図書館のコアは知的情報の発信の場であって欲しい。図書館の本来のところを議論すべきで、そこを固める必要がある ＜諸室機能＞ ・読書相談・調査相談レファレンス・利用案内は、それぞれに分けるのではなく、1 つにまとめてはどうか。なんでもそこで相談できるような、総合窓口のイメージ。総合窓口には、相談しやすい雰囲気の職員を置いてほしい ＜バリアフリー＞ ・障害のある人が来やすい、来たくなる図書館にしてほしい。ソフト面でも、読書バリアフリーを考慮したものであってほしい ＜駐車場・駐輪場＞ ・中央館は駅前にできる予定だが、他市で駐輪場・駐車場が有料になっているところがある。有料だとゆっくりすることができない ・豊中は、横は狭いが縦は長いので、駐輪場も必要である ＜送迎バス＞ ・送迎バスは必要。豊中市東部、南部の市民は来にくい場所。箕面市の「オレンジゆずるバス」のようなイメージ。送迎バスは一定数の利用者が見込めるため、採算はとれるはず

	□　諸室のあり方・関係性等に関する意見交換 ＜機能配置＞ ・限られたスペースに要望のすべてを盛り込むことはできない。詰め込みすぎず、図書館に必要な機能を配置する方が良い ・書架の配置は図書館内の空間が見晴らしよくなるよう工夫がいる ・図書館が開くのを待つあいだ待機できるスペースが欲しい ・予約資料の取り置き場所は入り口付近にすると、予約資料だけ借りて図書館の中にきてもらえない。受け取る場所を選択できるようになればいい ・災害時に安全に避難できるよう館内をレイアウトする必要がある ・コピー機は市民活動をするときに、近くにあったらうれしい ・トイレの配置も大切 ＜上下階のゾーニング＞ ・静寂とにぎわいをワンフロアの中で分けるのでなく、上下階で分ける。一般開架ゾーンに開架閲覧（成人室）（レファレンス資料）を置き、児童開架ゾーンと集会室等の部屋をワンフロアにする ・（上記に関連して）図書館専用のエスカレータかエレベーターがあると良い（建物のエレベーターがフロアから行きやすい場所にあれば不要） ・1 階と 2 階で静かな場所とにぎやかな場所（フリーなフロアと静かなフロア）がわかれている方が使いやすい ・全国的に吹き抜けで各フロアのつながりを演出している。豊中市でも採用してはどうか ＜資料コーナー＞ ・時事問題（社会問題）コーナーを設置する ・（郷土資料コーナー）古文書等を開架で置いてほしい ・（郷土資料コーナー）峠三吉の石碑や兄弟都市沖縄市と関連して、平和啓発資料コーナーがあると良い ・（郷土資料コーナー）古いもの（昔の豊中）だけでなく、今の情報も必要。多文化サービスや豊中の情報がわかるコーナーに ・（新聞・雑誌）朝から読みに来る人が多いので外に配置してはどうか。将来的に紙の新聞や雑誌は淘汰されていく可能性があり、別の用途に転用できるようにすると良い ・時間に余裕がなくても借りやすいよう、返却や予約受取コーナー近くに人気の本を置いておくスペースが必要。新刊コーナーでも良い。選書のための見計らい図書を一定期間並べて、新刊情報の代わりにしてはどうか ・新刊情報は図書館に求めない ＜自習・集会等＞ ・仕切りのある席は必要だが、本を読む、仕事をする、など用途を限定せずなんでもできる方が良い。仕事専用とするのであれば、近隣の中央公民館等に設置してはどうか ・集会室、研修室、講座室（保育室）など市民活動のための部屋は必要だが、パーテーションを使い柔軟に部屋の規模を変えられると良い。図面上の研修室と自学自習室は入れ替えて、ひと続きの部屋として使えると良い。ガラス張りなど見えるスペースであっても良い（催しによってはオープンに、会議などはカーテンで隠すなど） ・集会室を使っていないときは、自学自習スペースにしてほしい

	＜書庫＞ ・限られたスペースなので、閉架書庫にこれだけとるのはもったいない。たとえば今の岡町図書館を書庫として残すのはどうか ＜オープンスペース＞ ・交流スペースはオープンなスペースにあって、そこでイベント等ができれば良い ・オープンスペースで大きいホールがほしい。扉を開けて入るというのは敷居が高く感じる人もいるので、話を聞きたいなら緩く参加できるようなスペースがよい ＜子育て支援＞ ・豊中市には児童館がないので、親子で時間を過ごせる場所であると良い ・キッズスペースなどは民間を誘致する、他部署を引き込むなどして他フロアに設置し、できるだけ図書館本来の機能を多く置く方が良い ・授乳は時間がかかるので、室が 1 つだと足りない（重なることも） ・「未来ゾーン」という形でコーナーの一部でもいいので、子どもたちに決めてもらってもいいのでは ・ベビーカーで来られる利用者もいて、こども室は下層階にあるほうがいいのではないか ＜若者支援＞ ・YA コーナー（10 代向け資料コーナー）は必要 ・YA コーナーは自習室とミックスしてはどうか ・若者向けの資料が何を指すのか不明確なため、YA（10 代）向けの書架を別に設ける必要はない。学校図書館でも資料の扱いに困ることもあると聞く。一般向けと同じで良い ・学生が勉強する場所（自習スペースなど）は夜遅くまで使えるようにしてほしい ＜外国人＞ ・総合窓口の辺りに外国人向けのコーナーを設置する ＜静寂性・バリアフリー＞ ・聴覚・視覚など感覚過敏の方がいる。静寂読書室だけでなくそういった方のためのセンサリールームを設けてほしい ・対面朗読室の場所について、視覚障害者の方は 1 階部分の方が使いやすいのではないかまた、入口にある方が一般の方にも対面朗読サービスのことがわかる ＜デジタル・通信＞ ・10 年、20 年たつと電子書籍も充実すると思う。開架の閲覧室でオーディオブックを聞けるようにした方がいいかも ・zoom で司書と話ができるようにしてほしい（zoom でレファレンスなど） ・AV 視聴室がいる ・スマホなどの端末で個人視聴できる環境が整っているから、通信環境を充実させておけば、スペースを設ける必要性がない ・蔵書検索機だけでなく、インターネットや商用データベースを利用できるスペースが必要。携帯端末ではディスプレイが小さいため、一定サイズの画面をみながら調べたい。オープンスペースのあたりに配置してはどうか ・大きい情報掲示板を設置してはどうか。全図書館の話題を一覧できるよう情報発信に利用してもらいたい ＜屋外＞

	・屋外に開放スペースを設けても使えない季節が多く、メンテナンスにコストがかかる。一時的に少し屋外に出られるスペースがあると良く（デッキ）、その程度で良いのでは ＜意見聴取・今後の進め方＞ ・障害のある人や若者、子育て世代の人など、いろいろな人のところに出かけて意見を聞くことが必要。各図書館でも意見募集について、しっかり広報広聴しなければいけない ・意見を聞いても散漫になるだけだから聞く必要はない。行政で進めることも大事 ・図書館の使い方座談会のようなことをしてもらえたらいい ・諸室のあり方を検討するには各フロアの面積や各室の規模など、具体的な情報が必要。設計担当者にも加わってもらい、実態に沿った話し合いをしたい ＜その他＞ ・ふるさと納税でお金を集めて、返礼品にプレオープンツアーや書庫ツアーなどを開催してはどうか
意見の整理	・アンケート結果等を通じ、図書館に対し市民それぞれの立場から色々な機能が求められていることを共有し、その整理には充分な検討が必要なことを参加者で共有した ・中央館は地域館や分館を支え、全体を見渡すことが大事である。また、学校との連携・多様な機関との連携、大学や民間との連携が必要である ・司書の専門性がレファレンスや図書館運営に発揮されることが必要であり、司書と利用者との対面での交流が必要である ・まちのシンボルとして文化の拠点となる図書館がいる。イメージアップにつながる施設づくりが必要。文化芸術センターや中央公民館と連携した取組みが必要 ・子連れの利用者にとって、ただ本を借りるだけでない場所づくりが必要であり、そのための機能を充実させる必要がある ・若者が利用しやすくなるよう、開館時間の延長や資料の配置が必要である。また、自習室については、図書館全体で必要な機能や面積を考慮しつつ、確保する必要がある ・新聞コーナーや開館前の待機スペースがあればよい ・静寂とにぎわいをワンフロアの中で分けるのでなく、上下階で分けるといった検討や上下階での動線確保について検討が必要である ・飲食可能であってもよい。飲食施設は複合施設内にあればよい ・社会課題や豊中市の課題、郷土資料（地域資料）、新聞、外国人向けのコーナーがいる。データベースの充実や、個人の端末とも連携した最新の ICT 技術の活用について検討が必要である ・市民とともに新たな図書館を育てるプロセスが必要である

ワークショップ時機能相関図	 

Ⅲ　サービス計画

1　豊中市立図書館のめざす姿

（1）豊中市立図書館の基本コンセプト及び基本方針（基本構想）

基本構想では、基本コンセプト「つながる。わたしの図書館で。」を実現するために、豊中市立図書館がめざす方向性を「３つの基本方針」にまとめ、「主な取組み」を位置付けています。

＜豊中市立図書館の基本コンセプト＞

つながる。わたしの図書館で。

市民のニーズや抱える課題が多様化・複雑化している今、
図書館は「つながる」という機能を大切にしたいと考えています。
知や情報、本と人をつなげる。人と人、地域や組織がつながる。過去と今、そして未来をつなぐ。
つながることで新しい可能性をひらき、くらしをより豊かにする。
そして、明日のとよなかへつながる種をまく。
誰もが、自分なりに使い、楽しみ、つながる図書館へ。
豊中市立図書館は、すべての人の「わたしの図書館」であることをめざします。

＜豊中市立図書館の３つの基本方針と主な取組み＞

（1）すべての市民の「わたしの図書館」へ　～図書館の多様な利用を提案～

- サービスポイント※1設置等、利便性確保による利用者層の多様化
- 学校連携・アウトリーチ※2等特徴的な取組みの維持
- これからの生活様式に即した非来館型サービス等の提供
- 「場としての図書館」の効果的な活用

（2）知や情報とつなげる　～資源を生かし、市民の情報アクセスを保障～

- （仮称）中央図書館を中心としたサービス網の構築
- デジタル化社会に対応した、多様な媒体による情報の提供
- 政策課題や地域課題に対応する情報の積極的収集
- 人と人、人と情報をつなぐ担い手の育成

（3）未来へつなぐ　～持続可能な組織の構築～

- 事業コストを意識した運営計画（目標設定と行程の明確化）
- 計画的な施設の更新改修と再編
- 公民連携や自治体間連携の強化による効率的な管理運営
- ICT の積極的な活用による人員配置

※１：（図書）サービスポイント・・・予約した図書館資料の受取りや借りた資料の返却ができる場所
※２：アウトリーチ（サービス）・・・通常の方法ではサービスが届かない人たちにサービスを行き渡させるため、より積極的、能動的に図書館が工夫を凝らす活動のこと（出典：最新図書館用語大辞典）

（2）まちづくりの図書館像とビジョン（みらいプラン）

みらいプランでは、まちづくりの図書館像である「人と情報、人と人をつなぎ、まちの魅力を高める図書館」を実現するために、豊中市立図書館の３つの「ビジョン」のもと、「図書館サービス網の構築」を定めています。

＜まちづくりの図書館像とビジョン＞

■図書館像

人と情報、人と人をつなぎ、まちの魅力を高める図書館

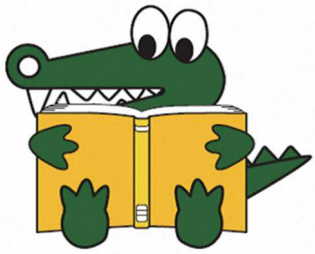
■ビジョン

社会教育の推進に向けた持続可能な施設配置をめざします
「知の拠点」として人と情報をつなぎ学びを支援します
行きたくなる図書館づくりをめざします

＜図書館サービス網の構築＞

■図書館の位置付け（施設階層）ごとの役割

位置付け	役割	役割の説明
中央館	あらゆる図書館 サービスの中心	・課題解決に役立つ専門書など充実した蔵書 ・選書の実施 ・レファレンスなど専門性の高いサービスの中枢 ・地域館、分館、サービスポイント、学校図書館への支援拠点 ・市民交流や情報発信の中心 ・多様な目的に応じた快適な閲覧環境 ・多目的なオープンスペース
地域館	庄内・千里地域における 中央館機能の補完	・汎用性の高い蔵書と地域課題に沿った専門書 ・地域特性に沿った資料の提供 ・中央館と連携したレファレンスの実施 ・地域ニーズに対応した多機能連携によるサービス提供 ・多様な目的に応じた快適な閲覧環境
分館	中央館・地域館より 身近な本と親しめる空間	・汎用性の高い蔵書 ・地域特性に沿った資料の提供 ・中央館と連携したレファレンスの実施 ・地域ニーズに応じた多機能連携によるサービス提供 ・身近な閲覧環境
サービス ポイント	予約資料の受取・ 返却に特化	・交通結節点など利便性の高い場所や他の図書館から離れた場所での予約資料の受取、返却 ・多機能連携によるサービス提供



2　（仮称）中央図書館のサービス方針・サービス計画

（1）サービス方針

あらゆる図書館サービスの中心となるための、5 つのサービス方針

①人と情報をつなぎ、行きたくなる中央館

「知の拠点」の中核施設として、多様な資料や情報を収集・保存・提供します。

開架エリア（利用者スペース）の魅力を高め、市民が滞在できるスペースを確保します。

市民の学びや情報取得及び発信の支援、図書館からの情報の発信等に取り組みます。

②人と人をつなぎ、にぎわい溢れる中央館

人が集い交流を生むスペースを設置し、イベント・講座などの事業を、市民と協働で取り組みます。

③図書館ネットワークでサービスの充実を図る中央館

図書館ネットワークの中核として、地域館や分館、学校図書館と連携し、図書館サービスの充実に取り組みます。

地域館や分館、図書サービスポイント、学校図書館等を支援します。

関係機関等とも連携し、全市的な図書館サービスの充実に取り組みます。

④すべての人が利用しやすい中央館

利用者層を広げ、多世代に親しまれる図書館をめざします（利用しやすさ No.1）。

誰もが安心して安全に利用できる施設の整備に取り組みます。

⑤まちの魅力を高める中央館

豊中のシンボルとなる中央館をめざし、様々な資源と有機的につながり、まちの活性化に取り組みます。

公民館と一体的に取組みを推進し、他の公共施設と共に文化の発展に寄与するとともに、公園の活用や商業施設などとの連携した取組みを進めます。

（2）サービス計画

5 つの方針に基づく、サービス計画

①人と情報をつなぎ、行きたくなる中央館

魅力ある蔵書の提供	資料の選択・収集・保存・除籍までの蔵書更新を定期的に行い、鮮度の高い蔵書を提供するとともに、知の蓄積を将来にわたって継続します。 サービス例 ・総出版における 50%以上の購入をめざし、鮮度の高い蔵書を提供します ・市民ニーズや時代、社会情勢など、求められる資料を提供、展示します ・「豊中を知る」ための地域資料や市政資料を提供、展示します ・さわる絵本、音点訳図書、大活字本、外国語資料などの誰もが利用できる蔵書構築をめざします
学術的・専門的な資料の提供	日常生活や仕事における学びの充実につながる学術書・専門書を提供します。 サービス例 ・調べ物や研究に役立つ専門書を提供します ・国立国会図書館や大阪府立図書館、市町村立図書館、大学図書館、サピエ図書館などのネットワークを活用し、資料の取り寄せ・複写サービスの強化・充実に取り組みます

レファレンスサービスの提供	資料に対する相談に応じるとともに、暮らしや仕事などの課題解決を支援します。 サービス例 ・相談に応じた資料を探し提供します ・書庫資料、蔵書及び商用データベース、インターネット情報などから、課題解決につながる資料や情報を提供します ・課題解決につながる機関や組織等への橋渡しを行います ・調査事例を公開し、市民と共有します（レファレンス協同データベース）
情報発信	資料や情報を積極的に発信します。 サービス例 ・テーマに応じた資料展示を定期的に実施します ・新着資料を積極的に発信します ・図書館情報を館内に掲示、豊中市立図書館ホームページや SNS で発信します ・出前講座を実施します ・館内見学ツアーを実施します ・市民の情報発信を支援します

②人と人をつなぎ、にぎわい溢れる中央館

にぎわいの創出	施設・サービスの両面から人と人の交流を創出します。 サービス例 ・オープンスペースを設置し、自然と交流が生まれる空間を創出します ・定期的に講座やイベントなどを実施します ・子育て中の人や働く人など世代に応じたサービスを実施します
市民との協働	すべてのサービスにおいて、協働の視点で取り組みます。 サービス例 ・子ども読書活動や障害者・高齢者サービス、外国人読書支援など、市民活動団体と協働で取り組みます ・北摂アーカイブス「地域情報アーカイブ化事業」を、市民と協働で取り組みます ・団体貸出などにより市民活動団体を支援します
子ども・若者が学ぶ	学校と連携し、子どもの学びにつなげます。 サービス例 ・図書館見学を受入れます ・学校の職場体験学習に協力します ・地域の大学や専門機関等と連携し、学びの機会を提供します ・個人やグループなど多様な学びの環境を整備します

③図書館ネットワークでサービスの充実を図る中央館

ネットワークの中核	図書館ネットワークの中核として、図書館全体を統括する役割をはたします。 サービス例 ・地域館や分館、学校図書館とも連携し、利用状況、地域ニーズの把握に努め、現状分析や先進事例の調査研究等をサービスに反映するよう取り組みます

	・図書館サービスの指針を示し、図書館全体の事業展開を推進します ・災害や事故等のリスク発生時には関係機関等と連携するとともに、図書館全体のリスク対応をとりまとめます
資料の物流	中央館が物流拠点となり、地域館、分館、図書室、図書サービスポイント、学校図書館に資料を配送し、資料を最大限にいかす物流ネットワークを構築します。 サービス例 ・１日２回、各館等に資料を配送します ・学校物流便を週２回の頻度で運行します
地域館への支援	地域館の運営を支援します。 サービス例 ・地域情報の収集・保存・提供・発信を支援します ・地域館の企画行事を支援します ・庄内 REK 実行委員会（庄内図書館参画）の活動を支援します
分館･図書室への支援	分館・図書室の運営を支援します。 サービス例 ・地域への資料提供を支援します ・地域情報の発信を支援します ・特色ある分館づくりを企画します
図書サービスポイントの運営	図書サービスポイントを運営します。 サービス例 ・交通結節点など利便性の高い場所や他の図書館から離れた場所での資料の受取、返却を推進します
学校図書館への支援	学校図書館の運営を支援します。 サービス例 ・学校図書館の支援・連携担当を配置し、学校図書館間の連絡調整、企画事業や学校司書のスキルアップを支援します ・とよなかブックプラネット事業※1を推進します ・児童・生徒・教職員への資料提供を支援します

※１：とよなかブックプラネット事業・・・学校図書館と公共図書館の蔵書を一体的かつ効果的に活用する環境を整備し、相互の連携により、学齢期の子どもたちの多様な読書・学習活動の推進をめざすもの。

④すべての人が利用しやすい中央館

利用しやすい環境整備	世代や属性、分野などを問わずすべての人が利用しやすい環境を整備します。 サービス例 ・「にぎやか」、「静か」の音のゾーニング、「飲食が可能な閲覧スペース」などで利用しやすい空間を創出するなど、多様な閲覧環境を整備します ・子どもや子育て世代、若者、障害がある人、働く人など、すべての人が利用できる、利用しやすい環境を整備します ・24 時間予約貸出しを実施します

アウトリーチサービスの実施	図書館利用が困難な人にアウトリーチサービスを実施します。 サービス例 ・団体貸出などにより図書館以外の読書拠点の充実を支援します ・動く図書館の巡回サービスを実施します ・図書館に来館できない利用者への郵送・宅配サービスを実施します
デジタル化の推進	非来館型サービスや図書館内のデジタル化に取り組みます。 サービス例 ・電子書籍を充実しデジタル図書館の利用を促進します ・タブレット等による電子書籍の閲覧を推進します ・デジタル機器を活用した図書館利用を支援します ・閲覧席の電子予約を実施します ・安全で快適な公衆無線 LAN を設置し学びを支援します ・集会室の電子予約を実施します

⑤まちの魅力を高める中央館

他の公共施設や関係機関との連携	個人の学びから社会参加につなげる取組みを進めます。 例 ・公民館事業や社会教育団体と連携します ・様々な市民活動団体と連携します ・市民講座等、多様な学習機会の情報を集約し、整理して提供に努めます
公園の活用	公園との相乗効果を生み出します。 例 ・公園を活用し出張読み聞かせなど図書館事業を実施します ・市民活動団体と連携した事業を実施します
商業施設等との連携	商業施設と連携し地域の活性化に取り組みます。 例 ・図書館スペースを活用するなど商業施設と連携した事業を実施します ・地域行事に参加し図書館サービスを周知します
まちなみの形成	公民館と一体的に取組みを進め、周辺公共施設や公園と調和を図り、文化エリアの推進に取り組みます。 例 ・中央公民館や文化芸術センター、公園との回遊性を高め、にぎわい創出に取り組みます

Ⅳ　整備計画

1　整備計画

（1）サービス計画と諸室・設備等の整備方針

「Ⅲ.サービス計画の２(仮称)中央図書館のサービス方針・サービス計画」を踏まえ、諸室・設備等の整備方針を示します。

表　サービス計画と整備方針

サービス計画		諸室・設備等の整備方針	関連する諸室・設備等
①人と情報をつなぎ、行きたくなる中央館	魅力ある蔵書の提供	○市民ニーズ等に応じた資料を提供できる開架書架や新聞・雑誌コーナーの整備 ○地域資料や市政資料の専用書架、展示コーナーの整備 ○バリアフリーに配慮した誰もが利用できる開架書架の整備 ○蔵書更新を行いやすい作業スペースの整備 ○資料確保に必要な閉架書庫の整備	・一般資料、10 代向け資料、児童資料、障害者用資料、医療・健康情報、学術・専門書、レファレンス資料、地域や市政資料などの開架書架 ・新聞・雑誌コーナー ・総合窓口 ・レファレンス相談窓口 ・参考室 ・展示コーナー ・オープンスペース ・事務室スペース ・作業スペース ・閉架書庫 ・情報通信設備・情報端末機器
	学術的・専門的な資料の提供	○学術書・専門書を提供できる開架書架や適切に保管できる閉架書庫等の整備 ○国立国会図書館等の取り寄せ資料の保管・複写作業スペースの整備	
	レファレンスサービスの提供	○利用者が相談しやすいレファレンスサービスが提供できる場の整備 ○自ら調べやすい書架の配置と情報端末機器の設置	
	情報発信	○エントランス、オープンスペース、閲覧スペース等でのテーマに応じた展示コーナーの整備 ○ホームページや SNS 等のデジタル情報発信を行う情報機器の設置	
②人と人をつなぎ、にぎわい溢れる中央館	にぎわいの創出	○自然と交流が生まれるオープンスペースの整備 ○親子で過ごしやすい環境整備 ○ビジネスで利用しやすい環境整備	・オープンスペース（※再掲） ・児童資料の開架書架・閲覧スペース（※再掲） ・授乳室、親子トイレ、読み聞かせスペース ・オフィスブース ・ビジネス資料の開架書架 ・パソコン等利用可能な閲覧席 ・集会室や研修室（グループ学習室） ・団体貸出資料倉庫 ・ボランティア支援室 ・階段
	市民との協働	○市民や団体と協働し事業を推進するための場の整備（打合せ、イベント等）	
	こども・若者が学ぶ	○館内見学や職業体験しやすい図書館の整備 ○地域の大学や専門機関等と連携した学びの場の整備	

サービス計画		諸室・設備等の整備方針	関連する諸室・設備等
③図書館ネットワークでサービスの充実を図る中央館	ネットワークの中核	○図書館全体を統括し、事業展開の推進とリスクへの対応に必要な整備	・事務室スペース（※再掲） ・情報通信設備・情報端末機器（※再掲） ・ストックスペース、荷捌きスペース ・人荷エレベーター ・駐車スペース
	資料の物流	○円滑な図書の物流支援を支えるバックヤードの整備	
	地域館への支援	○地域情報の収集・保存・提供・発信の支援、地域館の企画行事の支援に必要な整備	
	分館・図書室への支援	○分館・図書室への資料提供・情報発信の支援、特色ある分館づくりの企画に必要な整備	
	図書サービスポイントの運営	○図書サービスポイントの運営支援に必要な整備	
	学校図書館への支援	○学校図書館の運営支援に必要な整備	
④すべての人が利用しやすい中央館	利用しやすい環境整備	○「にぎやか」、「静か」の音のゾーニング、「飲食可能な閲覧スペース」などによる利用しやすい空間の整備 ○座席、机、広さ、眺望など利用者の使い方に合わせて選択できる多様な閲覧環境の整備 ○子どもや子育て世代、若者、障害がある人などに配慮した環境整備 ○個人からグループまで、多様な学びの場の整備 ○予約資料受取コーナーや24時間予約貸出しによる図書の貸出・返却の場の整備 ○情報端末が利用しやすい快適なデジタル環境の整備 ○利用しやすい駐輪場・駐車場の整備	・総合窓口、エントランス、通路、エレベーター、階段（※再掲）、トイレ、案内サイン ・閲覧スペース（※再掲）、静寂読書室、対面朗読室・調整室 ・携帯電話ブース ・授乳室（※再掲）、一時保育スペース ・自学自習室 ・集会室・研修室（グループ学習室）（※再掲） ・予約資料受取コーナー ・24時間予約資料貸出ロッカー ・図書館閉館時返却ポスト ・情報通信設備・情報端末機器（※再掲） ・駐輪場、駐車場 ・電算室
	アウトリーチサービスの実施	○動く図書館の巡回サービス運用スペースの整備 ○郵送・宅配事務スペースの整備	
	デジタル化の推進	○非来館型サービスや図書館内のデジタル化を支える情報通信設備の設置 ○閲覧室・集会室の電子予約システムや電子管理システムの設置	
⑤まちの魅力を高める中央館	他の公共施設や関係機関との連携	○中央公民館など公共施設と連携しやすい配置計画	・総合窓口、エントランス、通路、エレベーター、階段、案内サイン（※いずれも再掲） ・倉庫
	公園の活用	○公園での活動を実施する備品・設備の確保	
	商業施設等との連携	○テナントとの連携、建物全体で連携可能な動線整備（階段やエレベーター）	
	まちなみの形成	○建物敷地内のオープンスペースにおけるデザイン配慮	

（2）諸室の分類及び規模

図書館の規模は下記のとおりとします。

表　分類及び規模

分類	主な諸室	面積（㎡）
（1）利用者スペース		約 2,700
ア）一般閲覧スペース	総合窓口、一般資料（開架）、10 代向け資料（開架）、ビジネス資料（開架）、静寂読書室	約 1,000
イ）子ども関連スペース	児童資料（開架）、読み聞かせスペース、サービスカウンター、団体貸出資料倉庫、授乳室、親子トイレ、一時保育室、飲食可能スペース	約 800
ウ）障害者関連スペース	障害者用資料（開架）、対面朗読室、調整室、郵送貸出室	約 100
エ）レファレンススペース	レファレンス相談窓口、レファレンス資料（開架）、地域や市政資料（開架）	約 300
オ）新聞・雑誌スペース	新聞・雑誌コーナー	約 100
カ）学びのスペース	集会室、研修室（グループ学習室）、自学自習室、ビジネスブース	約 400
（2）交流スペース	オープンスペース	約 200
（3）保存スペース	閉架書庫、児童資料書庫	約 300
（4）管理スペース	事務室、電算室、作業スペース、ボランティア支援室、職員更衣室、休養室、来客対応スペース	約 400
（5）共有スペース	予約資料受取コーナー、携帯電話ブース、カームダウン・クールダウンスペース※1	約 100
（6）配送スペース	動く図書館等駐車スペース、学校図書館・図書館間物流等ストックスペース	約 200
（7）駐車・駐輪スペース	来館者駐車・駐輪スペース	（※2）
（8）その他	廊下、設備スペース、倉庫、返却ポスト、予約資料貸出ロッカー等	約 1,100
計		約 5,000

※諸室・面積は今後の設計過程で変更されることがあります。

※1：カームダウン・クールダウン・・・人混みなどで音や光の刺激に反応してパニック状態になりそうな時に、体調や気持ちを落ち着かせ、休むことができるスペースです。

※2：福祉車両 1 台分のスペースは確保

（3）諸室・設備等の仕様

（1）で示した「諸室・設備等の整備方針」を踏まえ、諸室・設備等の仕様を示します。

①全体配置及び動線等について

建物全般	・最寄り駅やバス停などから適切な動線を確保し、利用のしやすさに配慮した施設配置とする ・駐車場及び駐輪場からの入口までの動線を適切に確保する ・図書館開閉館時はいつでも利用できる図書返却用のポストを設ける。返却作業を考慮した位置に配置する ・図書館閉館時でも利用できる予約受取用のロッカーなどを設ける。利用動線を考慮した位置に配置する ・図書館の蔵書冊数を考慮し、積載荷重は十分な荷重を確保する ・資料が配送しやすいよう、車庫の位置や道路からの車両動線を確保する ・周辺環境との調和を図る
ユニバーサルデザイン	・バリアフリー法（高齢者・障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律）及び大阪府福祉のまちづくり条例の定め（移動等円滑化基準）において図書館に求められる水準を確保する ・図書館とそのアクセス部分を誰もが安心して利用できるよう、ユニバーサルデザインの視点に立ち、バリアフリーに対応する
環境配慮	・省エネルギーや経済性を考慮するなどライフサイクルコストの少ない施設整備をめざす ・内装などに木材を利用し、環境配慮を推進する

②図書館の諸室

一般事項	・開放的な空間づくりと、各階層のつながりを感じられる配置とする ・適所に閲覧席やテーブル席を配置し、居心地の良さを感じられる空間とする ・来館者の話し声や館内の移動音（ブックトラックなど含む）が、静かに利用する人の妨げにならないよう動線の設定や諸室の配置を行う ・開放エリアでは、高齢者や障害者、乳幼児を伴う来館者に移動の負荷がかからないよう配慮する ・開放エリアでは非常時の避難誘導を少ない人員でも円滑に行えるよう、死角を少なくし避難経路がわかりやすい諸室の配置とする ・エレベーターや出入口、各階層間の移動が円滑に行われるような配置とする ・エリアや階層ごとに段階的に開放と閉鎖できる工夫により、柔軟な運用が可能になるようなエリア、諸室の配置とする（例えば集会室や自学自習室、予約受取コーナー、などは図書館開館時間帯以外の利用ができる） ・閉鎖エリアを含む図書館見学（小学校等団体含む）を想定し、階層間の移動も考慮した諸室の配置とする ・諸室の特性に応じた吸音壁や耐火壁を整備する ・諸室の収蔵冊数等については各室の仕様及び中央館の蔵書計画（Ⅴ-1-（3））参照
サイン	・施設内で図書館にアクセスしやすい案内表示を計画する ・案内表示等は、多世代の利用者に配慮し、適切な位置、色彩、大きさで設置する ・日本語以外の話者にも認識されるよう工夫する
セキュリティ	・図書館のうち、事務室・電算室等セキュリティレベルの高い区画や、オープンスペースなど共用部レベルの区画などに応じてセキュリティレベルを適切に設定する ・資料の故意の損壊、来館者の窃盗被害を予防するため、防犯カメラの設置や職員、利

	用者の視覚によるフロアの見通し確保に考慮した配置とする ・入退館ゲートを設置する
什器・備品	・蔵書マネジメントに基づく中央館の蔵書計画で見込む蔵書数を収納可能な書架（固定型・移動型）の設置。想定蔵書規模（約 40 万冊：開架 25 万冊、閉架 15 万冊）を設定する。固定型の場合は車いすと人がすれ違える棚間を確保する ・セルフ貸出機等を設置する周辺環境は電波干渉による RFID タグ（※）の読み取り不能や誤読み取りがないように対策する ・窓口カウンター周辺及び電子機器の設置予定場所については、OA フロア、情報コンセントを整備する （※）RFID タグ・・・無線電波で読み取りが可能な蔵書管理用のデータを記録させたタグ

分類	区分	諸室	機能・用途	仕様	配置の考え方
利用者スペース	一般閲覧スペース	総合窓口	●利用者の総合的な対応窓口とする ●開架スペースとは利用時間が異なる運用とする	・総合窓口カウンターを設置する ・お知らせや催し情報、集会室利用が確認できる電子掲示板を設置する ・資料の返却機を設置する ・業務用パソコンを設置する ・電源設備を設置する ・ネットワーク環境を整備する	・開放エリアで、利用者出入り口に近く、動線の妨げにならないよう設置する ・複数層に図書館がまたがる場合には、低層階に設置する ・バックヤードに近接して設置する
		一般資料（開架）	●主に中学生以上の利用を想定する ●滞在型の利用を想定する	・約 16 万冊配架できる書架を設置する ・見通しが良く、探しやすい書架の配置とする ・車いす、ベビーカー、カートなどがスムーズに通行できる書架間隔とする ・セルフ貸出機を設置する ・蔵書検索機を設置する ・電源設備を設置する ・ネットワーク環境を整備する ・書架の明るさに配慮する	・バックヤードに近接して設置する ・一般資料、児童書、参考書などと全体的につながりのある配置とする
		10 代向け資料（開架）	●主に中学・高校生（12 歳～18 歳）の利用を想定する	・2 千冊配架できる書架を設置する ・書架の明るさに配慮する	・一般閲覧スペース内のうち、より入口に近い場所に設置する
		ビジネス資料	●主に働く人、働く準備をする人の利用を想定する	・3 千冊配架できる書架を設置する ・書架の明るさに配慮する	・一般閲覧スペース内に設置する ・オフィスブースと近接して設置する
		オフィスブース	●主に働く人、働く準備をする人の利用を想定する	・5 席程度を確保する ・各席は適切な照度が確保されるよう照明を配置す	・複数のフロア・スペースに分かれた配置でも可とする

利用者スペース				る ・各席で電源を設置する ・利用予約管理のためのシステムを導入する	
		静寂読書室	●静かに読書する空間とする	・30 席程度、確保する ・各閲覧席は適切な照度が確保されるよう、照明を配置する ・壁や扉は、静寂性、防音性を具えた設えとする ・室外から内部を視認できるよう、壁面はガラスの設えとする	・一般閲覧スペースとの連動した利用とするため、同スペース内に設置する
	子ども関連スペース	児童資料（開架）	●主に乳幼児、子育て世帯の利用を想定する	・開架は 5 万 3 千 5 百冊程度配架できる書架を設置する ・書架を温かみのある設えとする ・子どもが利用しやすい動線、書架間隔とする ・書架の明るさに配慮する	・複数層に図書館がまたがる場合には、低層階に設置する ・子どもや親子などが本に興味、関心を持ってもらえる空間づくりとする ・一般資料とのつながりある配置とする
		読み聞かせスペース	●職員による本の読み聞かせなどを行う ●滞在型の利用を想定する	・靴を脱いで座ったり寝転んだりできるカーペット等を設置する ・乳幼児が利用したくなるような備品や書架を設置する ・外から内部の様子が見えるつくりとする	・落ち着いた位置に設ける ・オープンスペースでの実施も想定
		サービスカウンター	●子ども関連スペース専用窓口をとする ●団体貸出しなどの受付窓口機能を持たせる	・窓口カウンターを設置する ・子どもに関連する情報発信のための掲示板等を設置する ・業務用パソコンを設置する ・電源設備を設置する ・ネットワーク環境を整える	・子ども関連スペース内、より入口付近に設置する ・バックヤードを利用しやすい位置に設置する ・児童資料書庫と近接して設置する
		団体貸出資料倉庫	●こども園や子ども文庫など、団体貸出資料を配架する	・貸出用資料を収納する書架を設置する ・効率的に貸出・配架できる設えとする	・サービスカウンターに近接して設置する
		親子トイレ	●親子で利用できるトイレを設置する	・1 か所設置する ・便器（小便器・大便	・児童資料スペース内に設置する

利用者スペース			●子どもは、幼児から小学生程度の利用を想定する	器）、手洗い場を設置する ・オムツ台を設置する ・脱臭機能を持つ設えとする ・幼児や小学生が利用しやすい設えとする	・授乳室と隣接して設置する
		授乳室	●滞在型の利用を促進するため授乳室を設置する	・1 か所設置する ・2 組が同時に利用可能なブース区画する ・授乳中、もう 1 人の子どもが椅子に座り絵本が読めるスペースを設ける ・離乳食を食べるスペースを設ける ・脱臭機能を持つ設えとする ・個別空調・換気設備を設け、電源を設置する	・児童資料スペース内に設置する ・親子トイレと隣接して設置する
		一時保育室	●子育て世帯が、子どもを預け、図書館を利用するため設置する ●一時保育の未使用時にも、子どもの利用を可能とする	・20 人が利用可能な広さとする ・室外から内部を視認できるよう、窓の設置や壁面をガラスとする ・乳幼児が安全に利用できる設えとする ・乳幼児が遊べる備品を設置する	・子ども関連スペース内に設置する
	障害者関連スペース	障害者用資料（開架）	●点字図書や音訳図書など資料を一部配架する	・大活字本、LL ブック、障害者用資料 1,000 冊配架できる書架を設置する ・車いす、カートなどがスムーズに通行できる書架間隔とする ・書架の明るさに配慮する	・一般閲覧スペース内のうち、より入口に近い場所に設置する ・対面朗読室と同階層とする
		対面朗読室	●対面朗読に利用する	・2 室設置する ・外部からの音の侵入、外部に音が漏れない防音構造となるよう、吸音壁等を設置する ・室外から内部を視認できるよう、窓を設けるとともに、窓面はスリガラス・ブラインドで遮蔽等とする ・個別空調・換気設備を設	・事務室と同階層に設置する ・ボランティア室と同階層に設置する ・エレベーターや階段からの動線に配慮した配置とする

利用者スペース				け、電源を設置する	
		調整室	●対面朗読室の音響設備の設置する ●対面朗読室内の音響を調整する ●録音資料の作成に利用する	・１室設置する ・室外から内部を視認できるよう、窓を設ける。隣接する対面朗読室を確認できるよう、窓を設ける ・対面朗読室同様の仕様とすることで、対面朗読のためにも使える ・個別空調・換気設備を設け、電源を設置する	・対面朗読室に隣接して設置する
		障害者用資料ストックスペース	●郵送貸出サービスの作業ができるスペースを設置する	・机を４席配置する ・音声デイジーCD3,000枚を並べられる書架を設置する ・個別空調・換気設備を設け、電源を設置する	・事務室と同階層に設置する
	レファレンススペース	レファレンス相談窓口	●利用者からの調べものや相談への対応	・レファレンス相談窓口を設置する ・データベース検索機器を設置する ・複写用コピー機を設置する ・電源設備を設置する ・ネットワーク環境を整備する	・レファレンス資料（開架）となるべく近接して設置する ・バックヤードに近接した配置とする
		ﾚﾌｧﾚﾝｽ資料（開架）	●参考図書の閲覧可能なスペースを設置する	・3万冊配架できる書架を設置する ・書架の明るさに配慮する ・書架にあまり日光がかからないよう配慮する	・レファレンススペース内で、レファレンス相談窓口と近接して設置する ・一般資料とのつながりある配置とする
		情報端末コーナー	●インターネットや商用データベース利用端末を設置する	・インターネット端末３台、商用データベース端末２台、蔵書検索端末１台を設置する	・レファレンス相談窓口と近接して設置する ・個々の端末利用のプライバシーに配慮した配置とする
		地域・市政資料（開架）	●地域や市政に関する資料など閲覧可能なスペースを設置する	・1千冊配架できる書架を設置する ・書架の明るさに配慮する	・レファレンス資料と近接して設置する ・一般資料とのつながりある配置とする
	新聞・雑誌スペース	新聞コーナー	●閲覧用新聞紙を配架するスペースを設置する ●開架スペースとは利用時間が異なる運用	・6紙が配架でき、365日分が閲覧できる新聞収納台を設置する	・落ち着いたスペースに設置する

			とする		
		雑誌コーナー（開架）	●雑誌の配架スペースを設置する	・閲覧用雑誌タイトルを配架できる書架を配置する ・バックナンバー（1年分程度）書架等を設置する	・一般閲覧スペース内に設置する ・閲覧用テーブルに近接して設置する
	学びのスペース	集会室	●講座やイベント、研修会、関係団体の利用を想定する ●開架スペースと利用時間が異なる運用とする	・1室設置する ・用途に応じて広さを調整する可動間仕切りを設置する ・室外から内部を視認できるよう、窓を設ける ・壁面はガラスなどにする ・机といすを設置する ・個別空調・換気設備を設ける ・出入口は施錠（電子錠）できるものとする	・複数層に図書館がまたがる場合には、高層階に設置する ・閉館時間や休館日も使用可能な配置とする
		研修室（ｸﾞﾙｰﾌﾟ学習室）	●グループでの学習に対応した部屋とする ●グループ学習がない場合、個人学習での利用を可能とする ●開架スペースと利用時間が異なる運用とする	・2室設置する ・各室6席程度を確保する ・机といすを設置する ・各閲覧席は適切な照度が確保されるよう照明を配置する ・各席で電源を設置する ・独立した部屋となる場合、室外から内部を視認できるよう、窓を設ける・壁面はガラスなどにする ・個別空調・換気設備を設ける ・隣室の音が聞こえないようにする ・出入口は施錠（電子錠）できるものとする	
		自学自習室	●個人の研究・学習の場として設置する ●開架スペースと利用時間が異なる運用とする	・30席程度を確保する ・静寂性、防音性を具えた空間とする ・机といすを設置する ・各閲覧席は適切な照度が確保されるよう、照明を配置する ・開放エリアの閲覧席とは異なり、独立した1室とするなど、静かに読書す	

				る空間とする ・独立した部屋となる場合、室外から内部を視認できるよう、窓を設ける ・壁面はガラスにする等、仕様を工夫する ・利用予約管理のためのシステムを導入する ・個別空調・換気設備を設ける ・出入口は施錠（電子錠）できるものとする	
分類	諸室		機能・用途	仕様	配置の考え方
交流スペース	オープンスペース		●イベントや展示、多世代が交流できる場とする	・まわりからの視認性が高く、書架エリアと一体感のある空間として設ける ・声などが反響しないよう吸音性を考慮する ・電源設備を設置する ・空間の明るさや照度の調整ができるよう暗幕の設置、照明の調整ができる	・一般閲覧スペースや子ども関連スペースと近接し、多くの人がイベント等を見学できる位置に設置する
	飲食可能スペース		●滞在型の利用を促進するため飲食可能なスペースを設置する	・20 人程度が飲食できる広さとする ・机といすを設置する ・机やいすは誰でも利用できるよう、複数の種類を設置する ・電源設備を設置する ・飲食物の臭いが他のエリアに流入しないような構造とする ・外から内部の様子が見えるつくりとする	・子ども関連スペースと近接して設置する
	閉架書庫		●保存書庫機能とする	・約 15 万冊所蔵できる書庫の設置を想定する ・移動書架とし、効率的に管理ができるようにする ・火災や水損を防止する構造・設備とする ・手動及び電動書架を設置する ・資料の保存に適した空調・照明設備を設ける ・照明はエリアごとに常時点灯、センサー点灯等の	・効率的に資料を受け渡し可能な配置とする ・バックヤードからの移動や、予約棚への配架など作業効率が向上する配置とする

保存スペース			切り替えを可能とする ・電源設備を設置する ・出入口は施錠（電子錠）できるものとする	
	児童資料書庫	●児童資料専用の書庫とする	・5 千冊配架できる書架を設置する ・空間の明るさ・照度の調整ができるよう暗幕の設置や照明の調整ができる ・書架の明るさに配慮する	・児童資料（開架）エリアに近接して設置する
管理スペース	事務スペース	●職員が事務作業を行うためのスペースを設置する	・職員数分の執務机を設置する ・打合せができる机・椅子を設置する ・図書館システム業務用パソコン（デスクトップ型）を設置する ・パソコン等の電源を確保し、OA フロアとする ・ネットワーク環境を整備する ・各 OA 機器の同時利用に対応できる電気容量とし、必要なコンセントを配置する ・電話設備を設置する ・必要に応じ遮光できる仕様とする ・図書館を対象とした放送設備を配置する。その他、防災・防犯上必要な設備等を配置する ・出入口は施錠（電子錠）できるものとする	・複数階層になる場合は、高層階に設置します ・各フロアやバックヤードなどサービス全般にかかわるアクセスに考慮した配置とする
	電算室	●図書館システムを設置、保守するためのスペースとする	・停電時への対策を考慮する ・施錠管理できる ・電算室が不要となった場合に閉架書庫として対応できるよう配置すること	・事務スペースに近接して設置する ・電算機器の消費電力・発熱量・重量を考慮し、必要な設備を配置する
	作業スペース	●寄贈本などを整理する ●資料を修復作業する	・作業机を設置する ・3 千冊の収蔵能力のある書架を設置する ・OA フロアとする	・事務スペース内、又は近接して設置する

			・電源設備を設置する ・出入口は施錠（電子錠）できるものとする	
	ボランティア支援室	●図書館サービスを支援するボランティアなどの活動拠点とする	・個別空調、換気設備を設置する ・電源設備を設置する ・洗面台を設ける ・使用物品保管スペースを設置する ・出入口は施錠（電子錠）できるものとする	・事務スペースに近接して設置する
	職員更衣室	●職員の荷物の一時置き場とできるスペースとする	・可動間仕切りにより区分可能な 2 室配置します ・各室に洗面台を設ける ・出入口は施錠（電子錠）できるものとする	・事務スペースに近接して設置する
	休養室	●職員の食事、休憩などのスペースとする ●急病人の一時保護としても利用する	・食事、休憩ができる机やいすを設置する ・電源設備を確保する ・給湯器を設置する ・出入口は施錠（電子錠）できるものとする	・事務スペースに近接して設置する
	来客対応スペース	●来客（他課職員含む）対応スペースとする	・6 人程度が利用できるソファーとテーブルを配置する ・パソコン等の電源を確保し、OA フロアとする ・電話設備を設置する ・ネットワーク環境を整備する ・出入口は施錠（電子錠）できるものとする	・事務スペースに近接して設置する
共有スペース	予約資料受取ｺｰﾅｰ	●予約資料を受け取るためのコーナーとする	・セルフ機器設置を配置する ・予約資料を配架できる書架を設置する ・電源設備を設置する ・ネットワーク環境を整備する ・書架の明るさに配慮する	・開架スペースとは利用時間が異なる運用ができるよう、一般閲覧スペースの入口付近に設置する ・総合窓口と近接した場所に設置する
	携帯電話ブース	●携帯電話の通話可能なスペースとする	・静寂性、防音性を具えた空間とする ・外から内部を視認できるよう、窓を設ける・壁面はガラスとする	・オープンスペースに近接して設置する ・複数階層になる場合は、各階層に設置する
	カームダウンスペー	●ストレス軽減や気持	・音や光などの刺激をやわ	・アクセスしやすい位置

	ス クールダウンスペース	ちを落ち着けるスペースとする	らげる空間とする ・外から内部の利用状況を視認できる	に設置する ・プライバシーに配慮する
	ﾍﾞﾋﾞｰｶｰ置き場	●子育て世帯の利用促進のため、ベビーカー置き場とする	・10 台分が利用できる広さを確保する	・子ども関連スペース入口付近に設置する
	ﾄｲﾚ・化粧室	●利用者用トイレを設置する	・多目的トイレは、バリアフリー法に基づき、車いす、内部障害利用者などにも配慮した規模・設備とする	・複数階層になる場合は、各階層に設置する
	事務・事業用品倉庫	●事務や事業等で使用する物品を収納するための倉庫を設置する	・収納に必要な広さとする	・複数階層になる場合は、各階層に設置する

③搬出入・荷捌きスペース

分類	機能・用途	仕様	配置の考え方
全般	●動く図書館車、公用車、物流運搬車等の出入、駐停車を行う ●動く図書館の運行、学校図書館支援、図書室・図書サービスポイント運営などに必要な資料を保管する	・一体的に管理できること（出入口は施錠できるものとする） ・通用口を設け、スマートロックなど物理キーによらない出入管理ができること ・動く図書館車 1 台、公用車軽自動車 2 台、物流自動車（ハイエース）2 台程度の一斉駐車ができること ・洗濯機置き場、物干し場を目立たない位置に設置する	・公道と同じ階（地上階）に設置し、公道への進出入経路や駐車場エリア内での移動・作業に十分な安全を確保する
動く図書館駐車スペース	●動く図書館車の駐車場を設置する	・1 台分。3.5t セミバス（全長 6.3m 全幅 2.18m 全高 2.57～2.64m） ・荒天時でも作業が可能であること ・出動時以外は、シャッター等で閉鎖できること ・手洗い場、洗濯機を設置する ・電源設備や排水設備を設置する ・図書館見学（小学校等団体含む）を想定した設えとする	・公道と同じ階（地上階）に設置し、公道への進出入経路の十分な安全を確保する ・利用者の車両と車両動線を明確に分けた配置とする
動く図書館荷捌きスペース	●動く図書館車への資料の積み下ろし作業を行う ●作業に伴う処理業務を行う	・荒天時でも作業が可能であること ・段差は極力なくし、必要な段差にはスロープ等で台車等の通行の便を確保する ・図書館見学（小学校等団体含む）を想定した設えとする ・パソコン作業を伴うため電源設備	・動く図書館駐車スペース内に設置する

		を設置する ・ネットワーク環境を整備する ・空調及び換気設備を設置する	
動く図書館ストックスペース	●動く図書館車に載せる資料を保管する ●動く図書館車に関係する事務作業を行う	・荒天時でも作業が可能であること ・パソコン作業を伴うため電源設備を設置する ・台車やブックトラックで安全にすれ違うことのできること ・段差は極力なくし、必要な段差にはスロープ等で台車等の通行の便を確保する ・図書館見学（小学校等団体含む）を想定した設えとする ・資料を置く書架を設置する ・シャッター等で閉鎖できること	・動く図書館駐車スペースに近接して設置する ・業務用エレベーターに極力近接して設置する
学校図書館支援荷捌きスペース	●学校図書館との資料の積み下ろしを行う	・荒天時でも作業が可能であること ・2 台以上の車両が同時に積み下ろし作業できるスペースとする ・台車やブックトラックで安全にすれ違うことのできること ・段差は極力なくし、必要な段差にはスロープ等で台車等の通行の便を確保する ・図書館見学（小学校等団体含む）を想定した設え ・出動時以外は、シャッター等で閉鎖できること	・業務用エレベーターに極力近接して設置する
学校図書館支援ストックスペース	●学校図書館支援資料を保管する	・荒天時でも作業が可能であること ・パソコン作業を伴うため電源設備を設置する ・台車やブックトラックで安全にすれ違うことのできること ・段差は極力なくし、必要な段差にはスロープ等で台車等の通行の便を確保する ・図書館見学（小学校等団体含む）を想定した設えとする ・資料を置く書架を設置する ・シャッター等で閉鎖できること ・保管する棚を設置する場所を確保する	・業務用エレベーターに極力近接して設置する
公用車等駐車スペース	●公用車、物流運搬車の駐車スペースとする	・荒天時でも作業が可能であること ・出動時以外は、シャッター等で閉鎖できること ・別に物流運搬車の運転手待機スペース（8 ㎡）を設けること	・公道と同じ階（地上階）に設置し、公道への進出入経路の十分な安全を確保する ・利用者の車両と車両動線を明確に分けた配置とする

		・図書館見学（小学校等団体含む）を想定した設えとする	
図書館間物流等ストックスペース	●豊中市立図書館間の搬送荷物を一時的に保管する	・1 日 2 回物流便の巡回。月曜日は 1 回 ・資料搬送用の箱 7 館分を平らに配置できる。複数の場所に分置は不可 ・大阪府立図書館等との搬送荷物を保管するためのスペースも考慮する ・シャッター等で閉鎖できること	・図書館運搬車駐車スペースに近接して設置する ・業務用エレベーターに極力近接して設置する
図書サービスポイント物流等ストックスペース	●図書サービスポイントへの搬送荷物を一時的に保管する	・1 日 1 回配本車の巡回。日・月曜日は運航予定なし ・資料搬送用の箱 20 個（1 か所あたり 10 個）が配置できる。複数の場所に分置は不可 ・シャッター等で閉鎖できること	・図書館運搬車駐車スペースに近接して設置する ・業務用エレベーターに極力近接して設置する

④駐輪場・駐車場

分類	機能・用途	仕様	配置の考え方
駐輪場	●近隣道路や近隣施設等に不法駐輪などの影響のないよう十分な駐輪場を設置する ●一部、職員用とする ●適宜自動二輪のスペースを設ける	・豊中市自転車設置要綱等に基づき、1 台あたり必要なスペースを確保し、適切な通路を設ける ・可能な限り８０台以上設置する ・自動二輪の台数は適当な台数とする ・可能な限り屋根を設ける	・図書館の入口へのアプローチがしやすい配置とする
駐車場	●図書館利用者の駐車場を設置する	・駐車場法及びバリアフリー法に基づき、1 台あたり必要なスペースを確保し、歩行者と自動車の安全性に配慮された適切な通路を設ける ・可能な限り 20 台以上設置する ・1 台は福祉車両（車いす使用者等用）駐車場を設置する ・福祉車両（車いす使用者等用）駐車場については、バリアフリー法に基づき、図書館へのアクセスが容易な配置とする ・福祉車両（車いす使用者等用）駐車場については、雨除けを設ける	・図書館の入口へのアプローチがしやすい位置に設置する

⑤設備

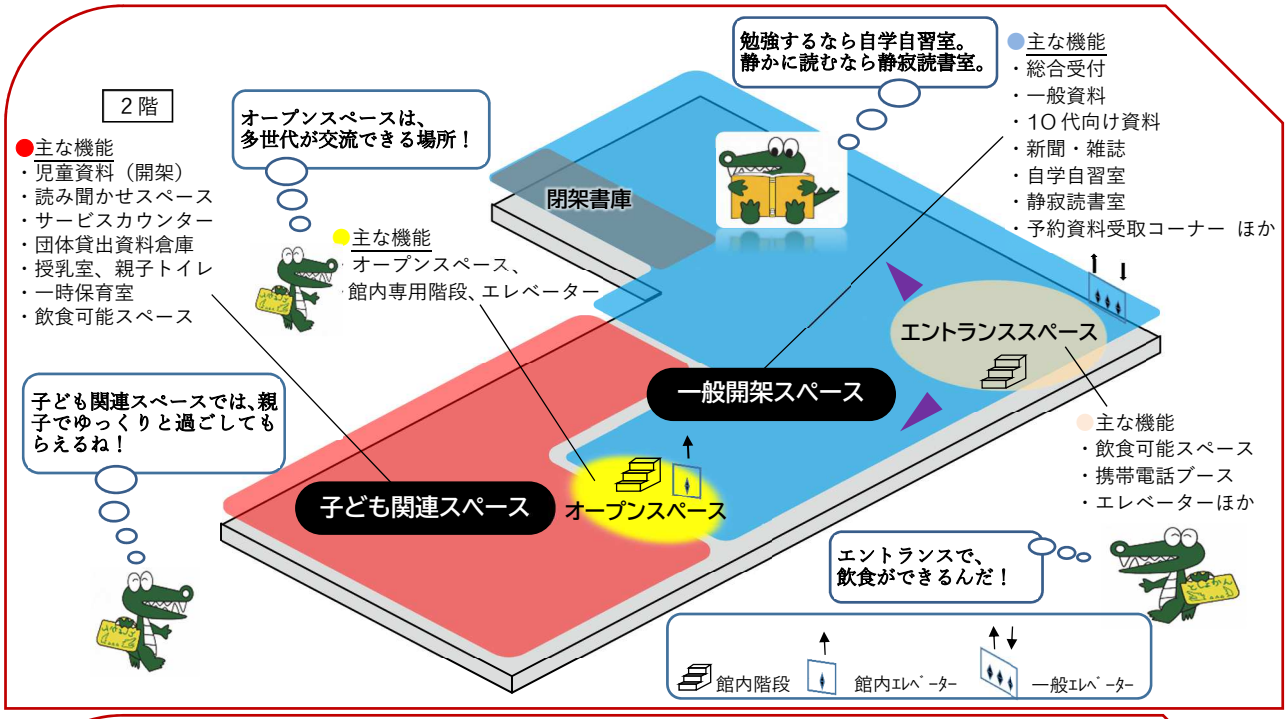
分類	機能・用途	仕様	配置の考え方
昇降機設備	●業務用エレベーターを設置する ●資料の搬入搬出に利用する ●図書館見学時に（小学校等団体含む）利用する ●救急搬送時に利用する	・業務用エレベーター1 基設置する ・一般エレベーターと共用不可とする ・開口部、奥行き、最大積載量とも十分確保する ・人荷用とする	・搬出入、荷捌きスペースと極力近接して設置する
分類	一般事項		
電気設備	・図書館部分の更新性、メンテナンス性に配慮し、維持管理しやすい計画とする ・図書館部分の省エネルギー、省資源に配慮した合理的・効率的な設備計画とする ・図書館部分の必要な機能の確保を前提としてランニングコストの低減を図り、合理的・効率的な計画とする ・図書館の事務室から図書館の設備機器の一括管理が可能な計画とする ・機器等の騒音や振動の低減を図る		
機械設備	〈非常用発電〉 ・非常用発電設備は法的な設置義務への対応に加え、図書館では保安用として、停電時の情報システムのバックアップ及び施設の最低限の機能維持に必要な照明について今後市で検討を予定しており、動力等の負荷に対して電力供給が可能な計画とする		
	〈構内情報通信設備〉 ・図書館では、オープンスペースを含む図書館内で利用者がスマートフォンやノートパソコンなどの持ち込みの機器によりインターネット接続が可能な、無線 LAN 接続環境を整備予定としている		

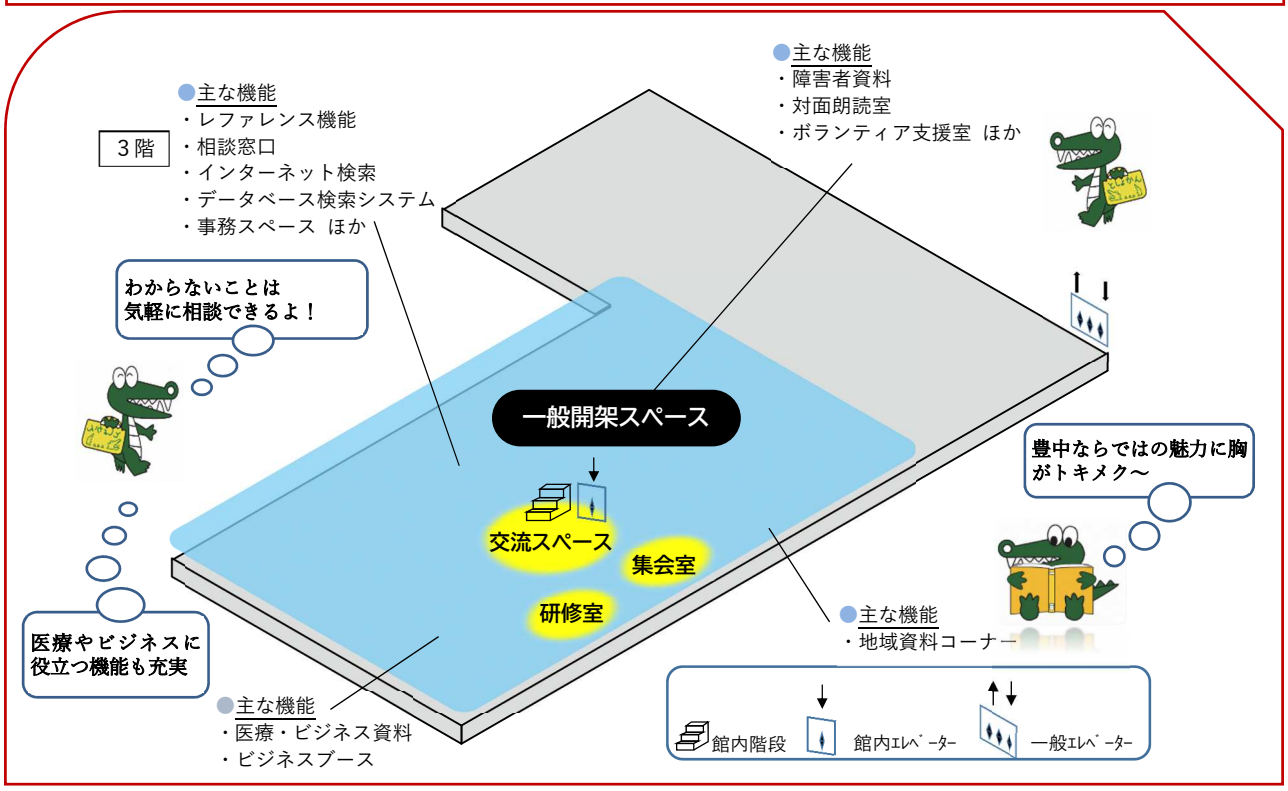
2　機能配置

（1）機能配置方針

（仮称）中央図書館のサービス計画を実現するため、整備計画に基づき諸室や設備等に関する考え方を示しました。その考え方を基に、多様なライフスタイルに応じた図書館利用ができる配置とします。

（2）機能配置





※１階には動く図書館などの駐車・作業スペースのほか、返却ポストの設置を予定しています。
※今後の設計過程で変更されることがあります。

Ⅴ　管理運営計画

1　蔵書マネジメント

（1）蔵書構築の方針（基本構想）

市立図書館の蔵書と中央館の蔵書について、基本構想で蔵書構築の方針を示しました。

①市立図書館の蔵書

・蔵書数

将来人口（豊中市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン（平成 27 年（2015 年）策定）の令和 22 年（2040 年）の将来展望 38 万人）と市民一人当たりの年間貸出冊数から想定年間貸出冊数を試算し、想定蔵書回転率（一冊の蔵書が年間に平均何回貸し出されたかを示す値、年間貸出冊数÷蔵書数）で割ると市立図書館で約 100 万冊となります。（※蔵書は、紙・デジタルの様々な媒体）

・資料収集

「豊中市立図書館資料収集方針」に定める基本方針の実現に努め、重点的に収集する資料を引き続き収集します。

・リクエストや利用者ニーズの分析等の活用

リクエスト情報の活用と蔵書全体の中立性や公平性確保の両立をめざし、利用者ニーズの分析によりそれぞれの優先順位や購入費の分配方法、上限割合の設定について検討します。

・蔵書構築業務の一元管理

資料の選書、収集、保存、除籍を一元的に行うとともに、書庫機能、レファレンスコレクションを中央館が効率的に担うことで、質的にも量的にも一元化した蔵書管理を行います。

・資料の運用

豊中市立図書館は、蔵書を特定館の所蔵として固定しない所在館方式で管理しており、返却資料は原則、返却された図書館の書架に配架しています。引き続き、定期的に各館の資料の入れ替えを行い、魅力的な書架づくりに取り組みます。

②中央館の蔵書

・蔵書構成

入門書から専門的レベルの資料、子どもから成人まで幅広い世代の知的好奇心に応える資料を収集します。また、レファレンスコレクションや豊中市関連資料、図書館利用に障害のある人のための資料（音声デイジー図書・点字図書など）を集約します。

・蔵書数

児童書や成人書、専門書などの資料の提供と保存、地域館・分館との蔵書数を勘案し、約 55 万冊と設定します（開架：約 30 万冊、閉架：約 25 万冊）。

想定資料数（基本構想掲載）：一般書 165,000 冊、参考図書 30,000 冊、児童書 105,000 冊

（2）蔵書の構築

蔵書構築の方針を実現するため中央館では以下のことに取り組みます。

①選書

選書については、図書館規則第 10 条に基づき、中央館に設置する豊中市立図書館選書委員会において集中して行います。

②保存・除籍

将来にわたり新しい資料を市民に提供するため、開架しない資料を選択し保存・除籍を行います。資料の保存・除籍を含む資料運用については、中央館で一元的に行います。デジタル図書館の蔵書構築についても、電子書籍の特性を考慮しつつ、基本的に同様とします。

③レファレンスコレクション

これまで地域館 4 館（岡町・野畑・千里・庄内図書館）で分担収集してきた参考図書等のレファレンスコレクションを中央館に集約し、閉架書庫や商用データベースの活用と併せてレファレンス機能の強化を図ります。ただし地域課題に沿った参考図書や汎用性の高い参考図書などは、地域館や分館に配置し、地域の魅力を伝えるほか地域ニーズに対応します。

（3）中央館の蔵書計画

①蔵書数

市民ニーズ調査の結果や市立図書館全体の書庫機能などから、基本構想の蔵書構築の方針を再検討し、基本構想で示した保存すべき資料数（100 万冊）のうち、中央館の想定資料数を約 40 万冊（開架：約 25 万冊、閉架：約 15 万冊）とします。

本計画を策定するにあたり、令和 5 年～6 年度にかけて実施した市民ニーズ調査では、蔵書の充実や落ち着いた読書環境とともに、会話しながら過ごせる場所や子どもが安心して過ごせる場所、親子向けのイベント開催、学習の利用や支援など、図書館に期待する市民の価値観が多様化していることが明らかになりました。それらのニーズを実現するには、より広がりのある利用者スペースの創出や多様な閲覧席の設置など、ゆとりある空間の整備が求められます。

そこで、開架については、子どもがゆったりと本を読めるスペースや親子で会話しながら本を読めるスペースなどを整備するため、児童書数を基本構想で示した 105,000 冊から 58,500 冊にします。一般書及び参考図書は基本構想の想定資料数とします。

閉架については、利用者スペースを拡充し、利用者数の増加促進を図るため、想定資料数を約 25 万冊から約 15 万冊にします。また、豊中市立図書館の書庫機能については全館で再検討します。

（仮称）中央図書館	想定資料数	児童書	一般書	参考図書
開架図書	約 25 万冊	58,500 冊	165,000 冊	30,000 冊
（参考：岡町図書館）	蔵書数 （約 13 万 2 千冊）	（40,772 冊）	（71,680 冊）	（19,677 冊）
（参考：服部図書館）	蔵書数 （約 5 万 5 千冊）	（21,733 冊）	（33,832 冊）	（243 冊）
閉架図書	約 15 万冊			

※岡町図書館及び服部図書館の蔵書数は令和 5 年度（2023 年度）の実績。

②学校図書館支援資料・団体貸出資料

学校図書館やこども園・子ども文庫などの団体を支援する資料を収集し、提供します。学校図書館支援ライブラリーの図鑑セットやサポートパックなどは支援専用として運用します。

③障害者用資料・外国語絵本

多様な読書ニーズに対応し、点字図書や音声デイジー図書等のほか、外国語絵本を収集し、提供します。

④蔵書更新

常に同じ資料が書架に並んでいる状態が続くと、その書架は市民にとって次第に魅力の少ないものとなる傾向にあります。そうならないために新しい図書を受け入れ、古くなったものは書架から取り除き、蔵書を更新する必要があります。そのように蔵書数を増減させながら、ニーズに合った鮮度の高い図書に触れられる環境を整え、市民と資料をつなぐ機能を果たします。

2　施設の管理運営

（1）管理運営方式

豊中市立図書館では、子ども読書活動や障害者・多文化サービス、しょうない REK、北摂アーカイブスなどの取組みを市民と協働で実施するとともに、市立図書館と学校、学校図書館との連携強化、事務事業の見直しなどを効果的に実施するため直営で図書館運営をしてきました。

公共図書館の運営については、直営の他に指定管理者制度や業務委託の方式もあり、特に指定管理者による運営において、全国的に注目される取組みを実施している自治体の事例もあります。一方、選書の偏りや経費の軽減効果が見られないなどの指摘がされています。現在、豊中市立図書館は、基本構想及びみらいプランを策定し、（仮称）中央図書館を核に新たな図書館サービス網の構築に取り組んでいます。引き続き、市民協働や学校連携など本市図書館の強みを活かしながら、新たな運営体制の確立、図書館の資源を活かしたまちづくり、加速するデジタル化の進展への対応などに取り組んでいくため、図書館運営については直営で行います。

維持管理については、本市では令和 3 年（2021 年）10 月 1 日より包括施設管理業務を開始し、市が保有する施設整備の保守管理等の業務を包括的に委託し、業務の効率化と施設管理の質の向上に取り組んでいます。現在、（仮称）中央図書館の計画地が民有地であり、建設も民間事業者が行うことから、維持管理方式については、今後の協議の中で検討します。

（2）開館時間・休館日

開館時間については、市民ニーズ調査において現在の岡町図書館より延長を望む割合が多く、通勤・通学者や子育て世帯等、市民の多様なライフスタイルに対応する必要があります。開館時間や休館日については、図書館ネットワークを統括する中央館としての役割や、駅前立地の利点、周辺地域の魅力を高めるまちづくりの視点等を踏まえながら、職員体制とともに検討します。

Ⅵ　（参考）第一優先候補地の選定

1　選定手順の概要

（仮称）中央図書館の候補地選定に向けて、令和 4 年度（2022 年度）から取組みを進めてきました。

年度	概要
令和 4 年度 （2022 年度）	基本構想で示した（仮称）中央図書館の主な条件をもとに、13 か所の市有地の調査を行い、条件を満たす豊島公園を候補地とした。 ・想定エリア・・・阪急電鉄宝塚線の豊中駅、岡町駅、曽根駅の都市機能誘導区域 ・想定規模・・・・5,000 ㎡程度 ・想定時期・・・・令和 10 年度（2028 年度）・11 年度（2029 年度）
	民有地について、市有地と同様に条件を示して公募を行い、岡町駅周辺と曽根駅周辺の 2 件の応募があった。条件を満たした 2 件を候補地とした。 ・「（仮称）中央図書館候補地における民間用地活用の可能性調査」の公募時期 ・・・令和 4 年（2022 年）8 月 5 日～10 月 4 日
	豊中市立図書館みらいプランに、（仮称）中央図書館の 3 か所の候補地を示した。
令和 5 年度 （2023 年度）	民有地の応募者に第一優先候補地の選定に必要な内容について調査を実施した。 ・「（仮称）中央図書館の第一優先候補地選定に係る調査」の公募時期 ・・・令和 5 年（2023 年）7 月 12 日～9 月 22 日
	豊中市（仮称）中央図書館第一優先候補地選定委員会において、第一優先候補地の選定評価基準を作成するとともに、候補地 3 か所の評価を実施し、曽根駅周辺の民有地を第一優先候補地とした。 ・所在地・・・豊中市曽根東町 3 丁目 36-10・37-1・37-4・37-9 ・応募者・・・同志土地株式会社
	令和 5 年度（2023 年度）第 3 回政策会議にて、曽根駅周辺の民有地を第一優先候補地とすることが承認された。

2　評価項目の概要

評価項目については、10 項目・27 内容により（仮称）中央図書館の候補地 3 か所を評価し、第一優先候補地を選定しました。

項目	内容
1 アクセス性	①最寄りの鉄道駅から候補地までの距離
	②最寄りのバス停から候補地までの距離
	③候補地に接する主要なアクセス道路の状況
	④候補地に接する前面道路の幅員
	⑤候補地周辺道路の混雑状況及び安全性
2 利便性	①商業施設等民間施設との近接性
	②圏域人口（徒歩圏、公共交通 1 路線で来館可能な人口）
3 周辺・立地環境	①公園への近接
	②近接する公園の規模
	③騒音や振動の無い環境
	④災害環境：風水害
	⑤災害環境：土砂
	⑥災害環境：地震（建物被害の危険性）
4 財政負担	①市が負担する費用負担額
5 中心性	①直近の国勢調査による人口重心から候補地までの距離
6 スケジュール	①令和 10 年度・11 年度の開館見込み
7 市の施策・計画等との整合性	①図書館みらいプランとの整合性
	②豊中市立地適正化計画との整合性
	③その他の関連計画
8 公共事業の継続性	①民間事業計画の継続性等
9 周辺地域への影響等	①周辺地域への好影響や経済波及効果
	②同居する民間施設等との相乗効果
10 建築計画	①利用しやすい配置（駐車場）
	②利用しやすい配置（駐輪場）
	③利用しやすい動線計画（外部からのアクセス）
	④設計の自由度
	⑤耐用年数